第2部：食の安全・安心と環境に関する消費者意識のクロス表分析

矢部光保（現九州大学大学院）・鈴木由紀

1．はじめに

第２部では，クロス表に基づく分析結果を示す。本報告書にクロス集計を載せるにあたり，基本的な考え方として，アンケートから得られた変数について，２変数とも順位変数の場合はスピアマン順位相関検定によって相関の有無を検定した。また，２変数ともカテゴリー変数か，あるいはカテゴリー変数と順位変数が混じっている場合に，カイ２乗検定に基づき，２変数間の関連性の有無を見る独立性の検定，あるいは，グループ間で分布に差があるか否かを見る一様性の検定を行った。そして，その結果に基づき，１％水準で有意な差が示されたものを中心に掲載している。

ただし，１％水準で有意差が見られた表だけを掲載しても数百表にもなることや基本的な傾向は類似している表が多いことに鑑み，２．において「遺伝子組換え食品がかなり安い場合」とのクロス分析の結果を示し，全体的なクロス分析の傾向を見る。次に，３．から７．では，２．の分析結果と比較することで，より興味深い分析結果が得られる場合，あるいはそれ自体が特徴的なクロス表について示すことにした。クロス分析の表は全部で100 以上にもなるため，特徴的な点について，各節の初めに概要を述べておいた。８．では，女性や独居男性のような，日常的に食品を購買すると思われる人と，同居者のいる男性のように，日常的に食品を購買するとは思われない人との比較分析を行う。最後に，９．でまとめる。以下では，上述の結果を詳しく見ていくことにする。

2．遺伝子組換え食品が価格上のメリットをもつ場合のクロス集計結果

ここでは，「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」とのクロス集計を見ていく。このクロス集計結果は，４０表以上にもなるが，これにより，遺伝子組換え食品に対する購買の可能性を，消費者の意識や属性，日常の購買行動と関係づけて検討していく。

1）生鮮野菜に関する購買行動や意識とのクロス集計結果

スーパーで買い物をする人は，生協や産直を利用する人と比較して，遺伝子組換え食品を買ってもよいと考える傾向がある。また，生産地名等を確認しない人や有機野菜を買わない人，安い野菜を買う人ほど，遺伝子組換え食品の購入可能性は高くなっている。

第 1 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	あまり買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか	スーパー	4.9%	21.6%	9.4%	39.0%	25.2%	1,430 (100%)
	八百屋	4.1%	18.7%	6.5%	37.4%	33.3%	123 (100%)
	地元の店	0.9%	9.9%	6.3%	38.7%	44.1%	111 (100%)
	生協	1.6%	10.9%	5.7%	27.9%	53.8%	247 (100%)
	Aコープ	0%	5.8%	5.8%	38.5%	50.0%	52 (100%)
	安売りショップ	16.7%	50.0%	16.7%	16.7%	0%	6 (100%)
	個人的な産直	0%	4.5%	1.8%	30.0%	63.6%	110 (100%)
	手に入るので買う必要がない	3.2%	12.9%	12.9%	25.8%	45.2%	31 (100%)
	その他	0%	10.3%	0%	25.6%	64.1%	39 (100%)
	合計	82	389	173	787	718	2,149 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

スーパーで購入する人が 1,430 人と全体の 66.5%を占めており，その内で遺伝子組換え食品が安価であれば，「是非買いたい」「買ってもよい」を合わせて 26.5%が買いたい意向を示し，「あまり買いたくない」「絶対買いたくない」を合わせた 64.2%は否定的反応であった。生協，A コープ，産直，その他（大部分は有機食品通販。）は，8 割以上がさらに拒否的傾向を示している。

第 2 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか	かなり気にする	6.9%	25.5%	10.1%	32.4%	25.0%	188 (100%)
	多少気にする	4.8%	25.2%	11.7%	36.2%	21.8%	613 (100%)
	気にする	1.8%	16.1%	7.2%	44.6%	30.0%	329 (100%)
	あまり気にしない	2.4%	14.0%	6.1%	39.3%	38.0%	763 (100%)
	気にしない	5.5%	9.8%	4.3%	22.5%	57.7%	253 (100%)
	合計	82	388	173	787	716	2,146 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

生鮮野菜の見た目を気にする人の方が，安価な遺伝子組換え食品を買ってもよいという傾向が見られた。つまり，生鮮野菜の見た目を「かなり気にする」層は，「是非買いたい」または「買ってもよい」と 32.4%が答え，「絶対買いたくない」は 25.0%であった。他方，「気にしない」層では「絶対買いたくない」と 57.7%が答えている。このように，見た目を重視しない程，遺伝子組換え食品への否定的反応は強くなるので，見た目とのクロス集計は，第 6 節で詳細に行うことにする。

第3表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q7 生産者名や農薬・肥料の使用状況が確認できる生鮮野菜を，よく買いますか」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
Q7 生産者名や農薬・肥料の使用状況が確認できる生鮮野菜を，よく買いますか		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
	いつも買っている	2.3%	4.7%	1.9%	20.7%	70.1%	255 (100%)
	しばしば買う	2.2%	14.0%	5.9%	37.1%	40.5%	703 (100%)
	ときどき買う	3.0%	22.2%	9.9%	41.8%	22.9%	818 (100%)
	あまり買わない	5.1%	26.5%	11.1%	39.9%	17.2%	313 (100%)
	まず買わない	32.7%	20.6%	17.2%	10.3%	18.9%	58 (100%)
	合計	82	388	173	787	717	2,147 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば1%水準で相関が認められた。

生産者名等が確認できる野菜を買わない人ほど，遺伝子組換え食品を積極的に受け入れる傾向が見られ，「まず買わない」層では，遺伝子組換え食品がかなり安価であれば「是非買いたい」「買ってもよい」と合わせて53.3%の人が答えている。一方，生産者名等が確認できる野菜を「いつも買っている」層は「絶対買いたくない」と70.1%の人が答えている。

生産者名や農薬等の使用状況が書いてある野菜は，有機野菜や減農薬，無農薬野菜であることが多い。したがって，有機野菜等を日常的に購入している人は，遺伝子組換え食品を避けることについて，第35表にも明らかにその傾向が示されている。

第4表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか」のクロス集計結果

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
	十分信頼している	8.1%	6.7%	4.0%	17.5%	63.5%	74 (100%)
	おおむね信頼している	2.3%	18.1%	5.2%	36.8%	37.4%	689 (100%)
	信頼している	4.2%	17.3%	7.8%	38.6%	31.8%	587 (100%)
	あまり信頼していない	2.9%	19.1%	11.1%	37.9%	28.7%	679 (100%)
	ほとんど信頼していない	13.3%	20.5%	10.7%	30.3%	25.0%	112 (100%)
	合計	82	385	173	786	715	2,141 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば1%水準で相関が認められた。

有機等の表示を信頼している人ほど，遺伝子組換え食品が安価であるだけならば，避ける傾向にある。つまり，「十分に信頼している」層では「余り買いたくない」と「絶対買いたくない」を合わせると81.0%になるが，「ほとんど信頼していない」層では，同割合が55.3%に減少している。

一般に，購入した食品の表示が正しいかどうかは，なかなかわからない。そのため，購入した後から表示を不審がると，それを買うと決めた自分の行動や判断自体を否定することになるから，購入した人ほど表示を信じるようになる（心理学で言う「認知的不協和の

解消」）ことが知られている。一方，有機食品を買う人は遺伝子組換え食品を回避する傾向にある。したがって，有機等の表示を信頼する人→有機食品を購入する人→安価でも遺伝子組換え食品の回避，という傾向が出たと思われる。

第 5 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q9 ホウレン草を買うとき，一束どのくらいの値段のものを買っていますか」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
Q9 ホウレン草を買うとき，一束どのくらいの値段のものを買っていますか		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
	50円	12.5%	43.7%	0%	25.0%	18.7%	16 (100%)
	80円	2.1%	30.8%	6.3%	35.1%	25.5%	94 (100%)
	100円	5.1%	24.8%	9.9%	35.8%	24.1%	655 (100%)
	150円	3.6%	16.6%	7.5%	41.1%	31.1%	720 (100%)
	200円	2.4%	12.7%	7.8%	37.1%	39.8%	447 (100%)
	250円	1.1%	3.5%	5.8%	30.5%	58.8%	85 (100%)
	300円	0%	5.1%	2.5%	30.7%	61.5%	39 (100%)
	350円	7.6%	0%	15.3%	7.6%	69.2%	13 (100%)
	400円以上	0%	33.3%	0%	0%	66.6%	3 (100%)
	その他	9.0%	9.0%	4.5%	22.7%	54.5%	44 (100%)
	合計	81	386	170	783	696	2,116 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

安いホウレン草を買う人には，遺伝子組換え食品が安価であれば，買ってもよいという傾向が見られる。例えば 80 円のホウレン草を買う人は，「是非買いたい」と「買ってもよい」を合わせて 32.9%が買ってもよいと回答し，逆に「絶対買いたくない」と答えた割合が 25.5%に過ぎない。

他方，普段から高いホウレン草を買う人は，遺伝子組換え食品が安いだけであれば，買いたくないという傾向が強く，一束 250 円以上のホウレンソウを買っている人は，「絶対買いたくない」が 6 割前後を占めている。その理由として，例えば，味や産地等にこだわりを持つ人の場合には，名産地産や付加価値の高い野菜（サラダ用ホウレン草・高糖度トマトなど）を日常的に買っているため，安いだけでは魅力を感じないケースが考えられる。あるいは，買っている野菜が有機栽培であるため，遺伝子組換え食品を回避している可能性もあるだろう。

第 6 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q10 遺伝子組換え野菜についてどのようにお考えですか」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか	価格や品質，安全性などの条件が満足できれば，買ってもよい	6.4%	31.3%	11.8%	37.8%	12.6%	1,185 (100%)
	価格や品質，安全性などの条件がどんなに良くても，絶対に買いたくない	0.6%	0.9%	0.7%	30.1%	67.4%	802 (100%)
	よくわからない	0.6%	6.2%	16.7%	60.8%	15.5%	161 (100%)
	合計	82	389	173	788	716	2,148 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

遺伝子組換え野菜について，「条件が満足できれば，買ってもよい」と考える層のうち，50.4%の人が，かなり安い遺伝子組換え食品でも，「余り買いたくない」「絶対買いたくない」と否定的反応を示している。このことから，遺伝子組換え食品を買ってもよいと考えている人でも，ほぼ半数の人は「安さ」だけでは満足していないことがわかる。そこで，残された条件とは何かということになるが，満足出来る条件としては，後出の 3．4）で詳しく分析する「安全性」が，特に重要である。

2）個人的属性やトレーサビリティに対する考え方とのクロス集計結果

大学院以上の人は遺伝子組換え食品に対して受容性が高く，所得の高い人や食費の多い人ほど遺伝子組換え食品を回避する傾向がある。また，トレーサビリティを監視する主体として消費者団体を望む人は，遺伝子組換え食品に対してより否定的であった。

第 7 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q32 あなたはどの教育課程まで終えられましたか」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q32 あなたはどの教育課程まで終えられましたか	中学・高等学校	3.9%	19.2%	9.4%	37.5%	29.7%	653 (100%)
	専門学校・短期大学	2.4%	14.1%	7.5%	41.3%	34.5%	452 (100%)
	大学	3.7%	19.2%	7.0%	35.0%	34.9%	848 (100%)
	大学院以上	11.1%	19.7%	7.4%	30.8%	30.8%	81 (100%)
	無回答	0%	18.4%	9.7%	31.5%	40.2%	92 (100%)
	合計	78	386	171	783	708	2,126 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

「専門学校・短期大学」と「大学」の人は買いたくない傾向が強いようだが，「大学院以上」になると「是非買いたい」の回答が 11.1%となり，他の学歴の層より，遺伝子組換

え食品に対する受容性が増している。学歴を回答しない人は，「絶対買いたくない」が 40.2%と最も高く，遺伝子組換え食品に対して否定的傾向がより強く現れている。

第 8 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q25 性別」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q25 性別	男性	4.8%	19.9%	8.3%	36.6%	30.1%	1,227 (100%)
	女性	2:3%	15.3%	7.7%	36.5%	38.0%	893 (100%)
	無回答	0%	23.0%	7.6%	46.1%	23.0%	13 (100%)
	合計	80	385	173	782	713	2,133 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

男性では，安価な遺伝子組換え食品に対して，「是非買いたい」「買ってもよい」を合わせた割合が 24.7%であるのに対して，女性では同割合が 17.6%である。逆に，男性では「絶対買いたくない」が 30.1%であるのに対し，女性では同割合が 38.0%と増加する。このように，男性の方が遺伝子組換え食品に対して肯定的傾向が見られる。

第 9 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q13 トレーサビリティが導入された場合，どのような団体や機関が監視すべきだとお考えですか」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q13 トレーサビリティが導入された場合，どのような団体や機関が監視すべきだとお考えですか	消費者による任意団体	2.9%	15.1%	5.4%	35.8%	40.6%	962 (100%)
	生産者による任意団体	4.5%	20.6%	10.6%	41.9%	22.1%	131 (100%)
	政府の認証を受けた第3者機関	4.4%	19.7%	10.5%	36.7%	28.5%	609 (100%)
	県や国などの行政機関	4.0%	21.5%	8.5%	38.2%	27.5%	269 (100%)
	よくわからない	7.4%	23.4%	14.8%	38.2%	16.0%	81 (100%)
	その他	4.4%	20.2%	7.8%	30.3%	37.0%	89 (100%)
	合計	82	388	172	785	714	2,141 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

トレーサビリティの監視機関を「消費者による任意団体」と答えた層は，安価な遺伝子組換え食品でも，76.4%が「余り買いたくない」「絶対買いたくない」と回答している。一方，「よくわからない」と答えた層は，遺伝子組換え食品をあまり拒否しない。

第 10 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q33 年収」とのクロス

	Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか						
Q33 年収		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
	200 万円未満	12.3%	21.9%	15.0%	32.8%	17.8%	73 (100%)
	200－399 万円	3.1%	19.3%	7.5%	38.7%	31.2%	320 (100%)
	400－599 万円	3.9%	19.7%	7.0%	37.5%	31.6%	480 (100%)
	600－799 万円	3.6%	20.0%	9.4%	33.0%	33.8%	414 (100%)
	800－999 万円	4.7%	16.3%	8.7%	36.6%	33.4%	351 (100%)
	1,000－1,199 万円	1.1%	20.4%	9.0%	40.3%	28.9%	176 (100%)
	1,200－1,399 万円	1.5%	12.5%	7.8%	40.6%	37.5%	64 (100%)
	1,400－1,599 万円	5.5%	11.1%	2.7%	50.0%	30.5%	36 (100%)
	1,600 万円以上	5.0%	10.0%	5.0%	35.0%	45.0%	40 (100%)
	合計	72	349	154	686	593	1,854 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

遺伝子組換え技術によって食品の価格が安くなった場合，年収が高い人ほど，そのような遺伝子組換え食品を買いたくないという傾向が読み取れた。

第 11 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q31 食べ物を買うために，1ヶ月におよそいくら使いますか」とのクロス

	Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか						
Q31 食べ物を買うために，1ヶ月におよそいくら使いますか		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
	2万円未満	5.7%	16.7%	10.1%	33.4%	33.9%	227 (100%)
	2－4万円	3.3%	20.2%	8.1%	36.5%	31.6%	648 (100%)
	4－6万円	3.2%	19.4%	7.7%	38.8%	30.7%	608 (100%)
	6－8万円	3.0%	15.6%	6.7%	38.6%	35.8%	326 (100%)
	8－10万円	3.0%	14.8%	8.6%	32.0%	41.3%	162 (100%)
	10－12万円	8.5%	22.8%	4.2%	32.8%	31.4%	70 (100%)
	12－14万円	9.5%	4.7%	9.5%	52.3%	23.8%	21 (100%)
	14万円以上	9.5%	0%	9.5%	33.3%	47.6%	21 (100%)
	合計	67	341	143	692	613	1,856 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば５％水準で相関が認められた。

遺伝子組換え技術によって食品の価格が安くなった場合，日常の食費が高い人ほど，そのような遺伝子組換え食品を買いたくないという傾向が読み取れた。このことは，第 10 表でも見たように，所得の高い人ほど食費も多くなることを考えると，低価格には魅力を感じないのであろう。

3）食の安全・安心や環境保全等に対する意識とのクロス集計結果

自然や環境のもつ有限性や脆弱性を憂慮し，食品添加物を心配し，飲食店の衛生管理や食品ラベルの表示を疑問視し，食の安全性を重視し，遺伝子組換え技術やその医学的利用にも反対の立場をとる人ほど，遺伝子組換え食品に対し否定的反応を示す傾向があった。

第 12 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-1 地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものだ」のクロス

		Q2-1　通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-1 地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものだ	全くそう思う	3.7%	17.1%	7.1%	34.3%	37.6%	1,481 (100%)
	多少そう思う	3.2%	21.0%	8.7%	46.2%	20.6%	489 (100%)
	どちらとも言えない	5.7%	17.1%	14.2%	31.4%	31.4%	105 (100%)
	余りそう思わない	6.3%	19.1%	17.0%	21.2%	36.1%	47 (100%)
	全くそう思わない	8.3%	25.0%	0%	16.6%	50.0%	12 (100%)
	合計	81	387	172	779	715	2,134 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

地球の資源は限られていると思う人ほど，遺伝子組換え食品を買いたくない傾向が見られる。すなわち，「地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものだ」について「全くそう思う」のは，1,481 人で全体の 69.4%を占めている。その内，「絶対買いたくない」と答える割合が 37.6%であった。これに対し，地球を限られた宇宙船とみなすことについて「多少そう思う」人は，同割合が最も少なくて 20.6%に減少している。

第 13 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-2 自然のバランスは大変微妙で壊れやすい」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-2 自然のバランスは大変微妙で壊れやすい	全くそう思う	3.3%	15.8%	7.5%	34.3%	38.9%	1,472 (100%)
	多少そう思う	3.3%	23.2%	10.0%	42.9%	20.4%	538 (100%)
	どちらとも言えない	7.3%	17.8%	5.2%	43.1%	26.3%	95 (100%)
	余りそう思わない	13.3%	26.6%	10.0%	23.3%	26.6%	30 (100%)
	全くそう思わない	27.2%	27.2%	0%	27.2%	18.1%	11 (100%)
	合計	81	387	173	787	718	2,146 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

自然は壊れやすいと思う人ほど，遺伝子組換え食品を買いたがらない傾向にある。すなわち，自然は壊れやすいについて，「全くそう思う」人は「絶対買いたくない」と答える割合が 38.9%と高いが，それ以外の層は，「絶対買いたくない」の割合が 30.0%未満と多少低くなっている。

第 14 表 「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-3 人類が直面している，いわゆる『生態系の危機』は，かなり大げさに言われていると思う」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-3 人類が直面している，いわゆる『生態系の危機』は，かなり大げさに言われていると思う	全くそう思う	19.5%	15.8%	15.8%	23.1%	25.6%	82 (100%)
	多少そう思う	4.0%	25.1%	12.7%	35.7%	22.2%	274 (100%)
	どちらとも言えない	3.9%	25.0%	8.6%	44.5%	17.7%	276 (100%)
	余りそう思わない	2.7%	19.7%	7.4%	44.5%	25.5%	658 (100%)
	全くそう思わない	2.6%	12.6%	6.0%	29.8%	48.7%	854 (100%)
	合計	79	389	173	788	715	2,144 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

環境問題に悲観的・危機的な思いを抱いている人ほど，遺伝子組換え食品について，買いたくないと答える傾向が読み取れる。すなわち，生態系の危機は大げさに言われているについて，「全くそう思う」層では，遺伝子組換え食品を「是非買いたい」という割合が 19.5%であったのに対し，それ以外の層で「是非買いたい」と答えたのは数%に過ぎない。一方，「全くそう思わない」と答えた，生態系は危機に瀕していると思っている人は，48.7%が「絶対買いたくない」と答えている。

第 15 表 「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-4 人間の食に供される家畜は，望ましい飼養環境の下で飼育されている」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-4 人間の食に供される家畜は，望ましい飼養環境の下で飼育されている	全くそう思う	14.7%	8.8%	8.8%	26.4%	41.1%	34 (100%)
	多少そう思う	6.7%	26.3%	12.1%	39.1%	15.5%	148 (100%)
	どちらとも言えない	4.1%	24.4%	11.6%	38.8%	20.8%	670 (100%)
	余りそう思わない	3%	16.1%	6.3%	40.7%	33.6%	909 (100%)
	全くそう思わない	2.5%	9.0%	3.6%	23.3%	61.2%	385 (100%)
	合計	81	388	171	787	719	2,146 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

家畜の飼養環境について懐疑的な人ほど，遺伝子組換え食品を買いたがらない傾向にある。すなわち，「家畜は望ましい環境で飼われている」について，「全くそう思わない」を選んだ人，つまり，家畜は不適切な環境で飼われていると考えた人は，61.2%が遺伝子組換え食品を「絶対買いたくない」と答えたのに対して，望ましい環境で買われていると見なす人ほど，遺伝子組換え食品に対して肯定的割合が増加している。ただし，「全くそう思う」を選んだ人では，サンプル数が 34 人で，全体の 1.6%しか占めていないために，この傾向ははっきりと現れていない。

第 16 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-5 現在使用されている食品添加物で，自分の健康が損なわれることはないと思う」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-5 現在使用されている食品添加物で，自分の健康が損なわれることはないと思う	全くそう思う	16.6%	27.0%	6.2%	20.8%	29.1%	48 (100%)
	多少そう思う	9.4%	27.8%	11.8%	35.5%	15.3%	169 (100%)
	どちらとも言えない	3.4%	27.8%	13.2%	38.7%	16.7%	431 (100%)
	余りそう思わない	4.0%	17.7%	6.8%	44.8%	26.6%	750 (100%)
	全くそう思わない	1.6%	10.0%	5.3%	28.7%	54.2%	747 (100%)
	合計	81	388	171	788	717	2,145 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

食品添加物を心配している層ほど，遺伝子組換え食品についても，否定的反応を示している。すなわち，食品添加物で自分の健康は害されないことについて，「全くそう思う」と答えた食品添加物を安心している人は，安価な遺伝子組換え食品について 16.6%が「是非買いたい」と答えたように肯定的である。他方，「全くそう思わない」と答えた添加物を危惧している人は「絶対買いたくない」が 54.2%と，拒絶する傾向にある。

第 17 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-6 レストランなど飲食店は，食べ物を十分に気をつけて扱っていないと思う」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-6 レストランなど飲食店は，食べ物を十分に気をつけて扱っていないと思う	全くそう思う	3.7%	14.3%	5.1%	24.2%	52.4%	404 (100%)
	多少そう思う	3.5%	18.5%	8.2%	38.3%	31.2%	882 (100%)
	どちらとも言えない	2.9%	20.3%	9.8%	41.7%	25.1%	620 (100%)
	余りそう思わない	5.1%	17.4%	7.1%	40.5%	29.7%	195 (100%)
	全くそう思わない	17.5%	12.5%	10.0%	25.0%	35.0%	40 (100%)
	合計	81	387	173	784	716	2,141 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

レストランの衛生管理に不信感を抱いている層ほど，遺伝子組換え食品についても，否定的反応を示している。レストランを信頼せず，食べ物に十分に気をつけていないことについて「全くそう思う」とした層は，遺伝子組換え食品を 52.4%が「絶対買いたくない」と答え，最も否定的な反応を示している。

第 18 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-7 現在，我々が直面している多様なリスクと比べれば，食の安全性のリスクはそれほど重要でない」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-7 現在，我々が直面している多様なリスクと比べれば，食の安全性のリスクはそれほど重要でない	全くそう思う	21.8%	28.1%	9.3%	21.8%	18.7%	32 (100%)
	多少そう思う	11.2%	32.7%	13.0%	29.9%	13.0%	107 (100%)
	どちらとも言えない	4.3%	27.8%	15.7%	35.9%	16.1%	298 (100%)
	余りそう思わない	3.9%	20.4%	8.2%	44.5%	22.7%	786 (100%)
	全くそう思わない	1.9%	10.8%	4.6%	30.9%	51.5%	910 (100%)
	合計	81	387	171	778	716	2,133 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

食の安全性のリスクを重視する層ほど遺伝子組換え食品を回避する傾向が強いことについて，顕著な結果が出ている。つまり，食の安全性のリスクは余り重要ではないについて「全くそう思う」とし，食以外にも多様なリスクがあることを重視する層は，安ければ遺伝子組換え食品を「是非買いたい」「買ってもよい」と 49.9%の人が回答しているのに対し，「全くそう思わない」と答えた食のリスクを最重視する層は，購入に肯定的な同割合が 12.7%に過ぎず，「絶対買いたくない」が 51.5%を占めている。

第 19 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-8 遺伝子組換え技術を食料生産に使用するならば，世界の食料問題の解決に役立つ」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-8 遺伝子組換え技術を食料生産に使用するならば，世界の食料問題の解決に役立つ	全くそう思う	26.0%	34.9%	7.5%	18.4%	13.0%	146 (100%)
	多少そう思う	4.2%	35.5%	13.2%	32.4%	14.4%	512 (100%)
	どちらとも言えない	2.3%	18.3%	10.0%	47.7%	21.4%	587 (100%)
	余りそう思わない	0.6%	8.0%	5.9%	49.6%	35.6%	435 (100%)
	全くそう思わない	0.9%	2.0%	1.3%	19.5%	76.0%	439 (100%)
	合計	81	385	170	775	708	2,119 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

遺伝子組換え技術が世界の食料問題に貢献すると考える層ほど，安価な遺伝子組換え食品を買いたいとする傾向が読み取れる。すなわち，遺伝子組換え技術が食糧問題の解決に役立つことについて「全くそう思う」とした層は，安価な遺伝子組換え食品を「是非買いたい」あるいは「買ってもよい」と 60.9%の人が考えているのに対し，「全くそう思わない」とした層は，同割合が 2.9%しかなく，遺伝子組換え食品を強く拒絶する傾向が読み取れる。

第 20 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-9 政府は食物の安全性確保のためにもっとお金をかけるべきだ」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-9 政府は食物の安全性確保のためにもっとお金をかけるべきだ	全くそう思う	2.5%	12.9%	5.4%	33.2%	45.7%	962 (100%)
	多少そう思う	2.8%	20.8%	9.9%	43.5%	22.7%	795 (100%)
	どちらとも言えない	6.2%	27.8%	12.4%	32.2%	21.2%	273 (100%)
	余りそう思わない	13.3%	23.3%	10.0%	28.3%	25.0%	60 (100%)
	全くそう思わない	23.0%	11.5%	0%	23.0%	42.3%	26 (100%)
	合計	79	384	171	777	705	2,116 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

政府は食の安全性確保のためにもっとお金をかけるべきと考える人ほど，遺伝子組換え食品に対して消極的である。すなわち，政府は食の安全性確保のためにもっとお金をかけることについて「全くそう思う」とする層は，45.7%が遺伝子組換え食品を「絶対買いたくない」と答えている。他方，サンプル数はあまり多くないが，政府が食の安全性確保のために支出しなくてよいと考える「余りそう思わない」や「全くそう思わない」層は，「買いたい」と「買いたくない」に別れた。

第 21 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-10 人間は必要に応じて自然環境を改造する権利を持っている」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-10 人間は必要に応じて自然環境を改造する権利を持っている	全くそう思う	15.3%	24.3%	11.5%	19.2%	29.4%	78 (100%)
	多少そう思う	5.3%	25.0%	7.5%	40.6%	21.4%	224 (100%)
	どちらとも言えない	4.0%	24.3%	12.0%	39.3%	20.3%	374 (100%)
	余りそう思わない	3.5%	20.2%	7.5%	41.4%	27.1%	593 (100%)
	全くそう思わない	2.4%	11.5%	6.4%	32.9%	46.6%	874 (100%)
	合計	81	387	172	787	716	2,143 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

人間には自然改造の権利があると考える人ほど，遺伝子組換え食品が安価ならば，買ってもよいという傾向が見られる。すなわち，人間には自然改造の権利があることについて「全くそう思わない」とした層は，遺伝子組換え食品を「絶対買いたくない」と答えた割合が最も高く，46.6%を占めている。他方，人間には自然改造の権利があると考えるほど，遺伝子組換え食品に対して肯定的反応が見受けられる。

第 22 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-11 大多数の人が遺伝子組換え食品を好むならば，それは許可されるべきである」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-11 大多数の人が遺伝子組換え食品を好むならば，それは許可されるべきである	全くそう思う	39.0%	38.1%	8.1%	5.4%	9.0%	110 (100%)
	多少そう思う	6.5%	50.0%	14.0%	23.5%	5.8%	306 (100%)
	どちらとも言えない	2.1%	25.5%	14.3%	47.0%	10.8%	461 (100%)
	余りそう思わない	0.5%	9.2%	7.8%	55.5%	26.7%	538 (100%)
	全くそう思わない	0.6%	3.3%	1.6%	26.2%	68.0%	727 (100%)
	合計	81	387	172	785	717	2,142 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

大多数の人が遺伝子組換え食品を好むならば，それは許可されるべきという考え方について，同意の程度が高いほど，遺伝子組換え食品に対する態度が肯定的という傾向が顕著に表れている。つまり，この考え方について，「全くそう思う」とした層は，かなり肯定的であり，安価な遺伝子組換え食品を「是非買いたい」と「買ってもよい」を合わせた割合は 77.1%であった。一方，この考え方について，「全くそう思わない」層は，同割合が 3.9%であり，遺伝子組換え食品に対して非常に否定的である。

大多数の人が好んでも許可されるべきではないと考え方の背景には，「市民の好みの問題だけで許可せずに，安全性試験等様々な手続きを踏むべきだ」という意見から，遺伝子組換え食品は断固反対の意見まで，様々な声が混じっていると思われる。

第 23 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-12 遺伝子組換え食品には利点があるとしても，もとより自然界に反している」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-12 遺伝子組換え食品には利点があるとしても，もとより自然界に反している	全くそう思う	0.4%	4.5%	3.1%	30.6%	61.1%	860 (100%)
	多少そう思う	3.3%	20.5%	9.3%	50.2%	16.5%	599 (100%)
	どちらとも言えない	4.5%	34.6%	15.7%	37.1%	7.8%	355 (100%)
	余りそう思わない	11.1%	42.0%	13.8%	27.6%	5.3%	188 (100%)
	全くそう思わない	15.5%	17.0%	4.6%	20.9%	41.8%	129 (100%)
	合計	81	386	171	776	717	2,131 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

遺伝子組換え食品は自然に反していると思うほど，遺伝子組換え食品を買いたくないという傾向が見られる。すなわち，遺伝子組換え食品が自然に反していることに「全くそう思う」人は「絶対買いたくない」が 61.1%もおり，「余りそう思わない」では「絶対買いたくない」が 5.3%まで減少する。

ただし，遺伝子組換え食品が自然に反しているについて，「全くそう思わない」を選ぶ

人では，「是非買いたい」が 15.5%と最も多い一方で，「絶対買いたくない」が 41.8%まで増加している。その理由として，遺伝子組換え食品は「利点がある」ことに同意し，かつ「自然界に反している」ことについて「全くそう思わない」という，遺伝子組換え食品の肯定派とともに，「遺伝子組換え食品には利点がある」という文言に対して「全くそう思わない」と考えた，遺伝子組換え食品に対する強い否定派も，このカテゴリーに混在したためと考えられる。

第 24 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-13 遺伝子組換え技術は医学目的であっても使用されるべきではない」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-13 遺伝子組換え技術は医学目的であっても使用されるべきではない	全くそう思う	1.3%	3.9%	2.6%	22.6%	69.3%	454 (100%)
	多少そう思う	0.5%	9.6%	5.0%	48.5%	36.1%	354 (100%)
	どちらとも言えない	1.8%	20.1%	10.8%	44.4%	22.6%	635 (100%)
	余りそう思わない	5.3%	28.9%	12.5%	37.6%	15.5%	470 (100%)
	全くそう思わない	16.1%	31.8%	5.3%	21.5%	25.1%	223 (100%)
	合計	81	387	170	782	716	2,136 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

遺伝子組換え技術の医学目的への使用に否定的な人ほど，遺伝子組換え食品の購入にも否定的な傾向が見られた。すなわち，遺伝子組換え技術は医学目的でも使用されるべきでないについて，「全くそう思う」と，その使用について最も否定的な人は，遺伝子組換え食品を 69.3%が「絶対買いたくない」を選び，その割合は最も高かった。他方，医学目的なら遺伝子組換え技術の使用を最も認め，「全くそう思わない」を選択した人たちは，遺伝子組換え食品を 16.1%が「是非買いたい」，31.8%が「買ってもよい」を選び，遺伝子組換え食品についても比較的好感を持っている。

第 25 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-14 食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	あまり買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-14 食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる	全くそう思う	11.7%	35.2%	5.8%	17.6%	29.4%	17 (100%)
	多少そう思う	4.3%	21.5%	6.5%	34.3%	33.2%	367 (100%)
	どちらとも言えない	3.2%	19.2%	8.3%	38.7%	30.5%	718 (100%)
	余りそう思わない	3.4%	16.3%	8.9%	40.4%	30.8%	764 (100%)
	全くそう思わない	5.3%	13.3%	7.6%	23.9%	49.8%	263 (100%)
	合計	81	383	173	779	713	2,129 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

食品ラベルの安全性や栄養価について信頼している人ほど，遺伝子組換え食品に対して

肯定的反応を示した。すなわち，食品ラベルの安全性や栄養価は信頼できるについて，「全くそう思う」を選択した人は，遺伝子組換え食品を「是非買いたい」と「買ってもよい」を合わせた割合が46.9%と最も多く，他方，食品ラベルの信頼性について「全くそう思わない」人は，同割合が18.6%と最も少なく，「絶対買いたくない」が49.8%と最も多い。

この結果は，生産地や有機栽培等の表示を信頼する人ほど，遺伝子組換え食品に対して否定的反応を示した第4表と，一見，逆のものになった。その理由として，第4表の表示は，生産地や減農薬・有機栽培についてであり，それを信頼して買う人は有機野菜や有機食品を日常的に購買し，農薬等の使用について大いに不安を感じている人たちであろう。他方，安全性や栄養価の表示は，大企業を含む，一般の加工食品に関するものであり，その表示に対する信頼は，企業や政府に対する信頼とも関連してくる。どのような生産者を信頼する，政府や社会をどれだけ信頼するかの違いによって，このような差が現れたと思われる。

「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-15 一般の人々が遺伝子組換え食品の摂取を避けたいと思うなら，そうすることができる」のクロス

スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば10%水準でも相関は認められなかった。

「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-16 遺伝子組換え食品に含まれるリスクが何であれ，私たちが本気で避けようとすれば避けられる」のクロス

スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば10%水準でも相関は認められなかった。

第26表 「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-17 遺伝子組換え食品によって何か間違いが起これば，地球規模の大事件となるだろう」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-17 遺伝子組換え食品によって何か間違いが起これば，地球規模の大事件となるだろう	全くそう思う	2.1%	9.9%	4.9%	32.9%	50.0%	959 (100%)
	多少そう思う	2.4%	21.3%	8.6%	44.8%	22.8%	750 (100%)
	どちらとも言えない	5.5%	27.6%	16.2%	33.9%	16.6%	271 (100%)
	余りそう思わない	16.6%	46.8%	13.5%	19.7%	3.1%	96 (100%)
	全くそう思わない	35.7%	10.7%	10.7%	17.8%	25.0%	28 (100%)
	合計	80	378	172	768	706	2,104 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば1%水準で相関が認められた。

総じて，遺伝子組換え食品によって地球規模の大事件を想像する人ほど，遺伝子組換え食品の購入には否定的傾向が見られる。つまり，遺伝子組換え食品により何か間違いが起これば地球規模の大事件となることについて「全くそう思う」を選択した人は，50.0%が遺伝子組換え食品を「絶対買いたくない」を選ぶ。他方，大事件を想定しない人ほど，遺伝子組換え食品について「是非買いたい」を選択する割合が高くなっており，大事件が起

こるかもしれないという不安感は，遺伝子組換え食品を回避する傾向を強めているように読める。

第 27 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-18 遺伝子組換え技術による悪影響が現れたとしても，遠い将来のことだ」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-18 遺伝子組換え技術による悪影響が現れたとしても，遠い将来のことだ	全くそう思う	17.3%	23.9%	8.6%	23.9%	26.0%	46 (100%)
	多少そう思う	6.4%	19.8%	10.8%	36.5%	26.2%	156 (100%)
	どちらとも言えない	5.8%	33.6%	11.3%	32.6%	16.4%	407 (100%)
	余りそう思わない	2.7%	18.2%	8.7%	46.3%	23.8%	788 (100%)
	全くそう思わない	2.3%	8.8%	4.8%	29.2%	54.7%	738 (100%)
	合計	81	388	172	782	712	2,135 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

遺伝子組換え食品による悪影響は遠い将来に起こるものではないと考える人ほど，遺伝子組換え食品の購入に対して否定的傾向を示した。すなわち，遺伝子組換え食品による悪影響が現れたとしても，遠い将来のことだという考えについて，「全くそう思わない」人は，遺伝子組換え食品を 54.7%が絶対買いたくないと思っている。他方，「全くそう思う」人は，遺伝子組換え食品を「是非買いたい」と「買ってもよい」を合わせて 41.2%になり，「絶対買いたくない」が 26.0%であった。

第 28 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している	全くそう思う	17.5%	15.7%	1.7%	31.5%	33.3%	57 (100%)
	多少そう思う	4.5%	32.1%	11.0%	33.6%	18.5%	199 (100%)
	どちらとも言えない	4.7%	20.7%	11.1%	41.3%	22.0%	486 (100%)
	余りそう思わない	2.6%	17.0%	8.1%	40.5%	31.6%	832 (100%)
	全くそう思わない	2.8%	12.4%	4.7%	28.2%	51.6%	563 (100%)
	合計	80	386	172	782	717	2,137 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

政府が遺伝子組換え技術について注意深く監視していると思う人ほど，遺伝子組換え食品について肯定的反応を示している。すなわち，政府の監視を信頼し，「全くそう思う」と答えた人は，遺伝子組換え食品を「是非買いたい」が 17.5%であり，政府をどちらかというと信頼する「多少そう思う」人では「買ってもよい」が 32.1%と，買う傾向が高い。しかし，政府を信頼していない「余りそう思わない」や「全くそう思わない」人は，遺伝

子組換え食品を「絶対買いたくない」がそれぞれ，31.6%，51.6%と否定的傾向がますます高まっている。

第 29 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-20 科学者たちは遺伝子組換え技術の使用について責任ある対応をとっている」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-20 科学者たちは遺伝子組換え技術の使用について責任ある対応をとっている	全くそう思う	13.3%	30.0%	6.6%	16.6%	33.3%	30 (100%)
	多少そう思う	11.7%	28.9%	12.4%	28.9%	17.9%	145 (100%)
	どちらとも言えない	5.0%	23.7%	10.8%	41.4%	18.9%	560 (100%)
	余りそう思わない	2.1%	16.7%	7.6%	40.9%	32.5%	854 (100%)
	全くそう思わない	2.5%	11.1%	4.7%	27.3%	54.1%	545 (100%)
	合計	81	388	172	778	715	2,134 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

科学者たちは遺伝子組換え技術について責任ある対応をとっていると思う人ほど，遺伝子組換え食品に対して肯定的反応を示している。すなわち，責任ある対応をとっていることについて「全くそう思う」人は，「是非買いたい」または「買ってもよい」を選択した割合は 43.3%であるが，「全くそう思わない」は同割合が 13.6%に過ぎない。

第 30 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-21 遺伝子組換え作物の生産者は，健康と環境に対する潜在的危険性について配慮している」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-21 遺伝子組換え作物の生産者は，健康と環境に対する潜在的危険性について配慮している	全くそう思う	16.6%	20.0%	13.3%	16.6%	33.3%	30 (100%)
	多少そう思う	9.4%	31.0%	11.2%	36.2%	12.0%	116 (100%)
	どちらとも言えない	5.6%	29.3%	13.8%	35.7%	15.4%	498 (100%)
	余りそう思わない	2.2%	16.6%	6.7%	45.5%	28.7%	858 (100%)
	全くそう思わない	2.8%	8.4%	4.6%	25.9%	58.0%	627 (100%)
	合計	81	384	173	779	712	2,129 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

政府への信頼，科学者への信頼と似た結果となり，遺伝子組換え作物の生産者は潜在的危険に配慮していると思う人ほど，遺伝子組換え食品に対して肯定的反応を示している。すなわち，生産者が配慮していることについて「全くそう思う」人は，「是非買いたい」または「買ってもよい」を選択した割合は 36.6%であるが，「全くそう思わない」は同割合が 11.2%に過ぎない。

第 31 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-22 人間は環境をひどく乱用している」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-22 人間は環境をひどく乱用している	全くそう思う	2.8%	12.9%	6.9%	32.9%	44.3%	1,136 (100%)
	多少そう思う	3.6%	23.4%	9.9%	42.3%	20.6%	735 (100%)
	どちらとも言えない	5.8%	28.8%	9.4%	39.4%	16.4%	170 (100%)
	余りそう思わない	13.7%	25.8%	5.1%	32.7%	22.4%	58 (100%)
	全くそう思わない	11.4%	14.2%	5.7%	25.7%	42.8%	35 (100%)
	合計	81	388	173	780	712	2,134 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

総じて，人間は環境をひどく乱用していると思う人ほど，遺伝子組換え食品の購入に関して消極的である。すなわち，人間は環境をひどく乱用しているについて，全体の 53.1%を占める 1,136 人が「全くそう思う」を選択し，そのうち 44.3%が遺伝子組換え食品を「絶対買いたくない」と答えている。サンプルが 35 人，全体の 1.6%しか占めない「全くそう思わない」を除き，人間は環境をひどく乱用していないと思うほど，遺伝子組換え食品に対して肯定的反応が増加していることが，表からも読み取れる。

第 32 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-23 人間が自然に干渉するとき，しばしば悲惨な結果を招く」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-23 人間が自然に干渉するとき，しばしば悲惨な結果を招く	全くそう思う	2.3%	13.0%	7.5%	32.9%	44.0%	1,109 (100%)
	多少そう思う	4.4%	22.3%	9.1%	41.2%	22.7%	734 (100%)
	どちらとも言えない	4.4%	26.4%	7.6%	41.2%	20.1%	223 (100%)
	余りそう思わない	12.7%	34.0%	6.3%	38.2%	8.5%	47 (100%)
	全くそう思わない	25.0%	10.0%	10.0%	15.0%	40.0%	20 (100%)
	合計	80	386	173	781	713	2,133 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

人間による自然への干渉は悲惨な結果を招くと考える人ほど，遺伝子組換え食品の購入に関して否定的であり，第 30 表と同様の傾向を示している。つまり，人間が自然に干渉すると，しばしば悲惨な結果を招くについて，全体の 52.0%を占める 1,109 人が「全くそう思う」を選択し，そのうち 44.0%が遺伝子組換え食品を「絶対買いたくない」と答えている。サンプルが 20 人，全体の 0.9%しか占めない「全くそう思わない」を除き，環境の乱用は悲惨な結果を招くと思う人ほど，遺伝子組換え食品に対して否定的反応が増加していることが，表からも読み取れる。

4）一般的な購買行動とのクロス集計結果

日常的に浄水器を使用し，有機食品を購入し，ファーストフードを敬遠し，食品ラベルを頻繁に確認する人ほど遺伝子組換え食品を回避する傾向がある。他方，食べ物を買うときに，特売の利用や買いだめをしたりする人は，遺伝子組換え食品が安価であれば，より買いたいと思う傾向が見られた。

第 33 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q30-1 店に行くときには詳しい買い物リストを作ること」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q30-1 店に行くときには，詳しい買い物リストを作ること	いつもする	4.4%	14.7%	6.4%	33.9%	40.3%	156 (100%)
	しばしばする	3.4%	17.8%	6.9%	34.0%	37.7%	347 (100%)
	ときどきする	2.0%	18.5%	8.2%	37.6%	33.5%	646 (100%)
	ほとんどしない	3.7%	19.4%	8.6%	39.6%	28.4%	633 (100%)
	しない	7.0%	16.8%	8.7%	33.1%	34.2%	356 (100%)
	合計	81	388	173	783	713	2,138 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 5%水準で相関が認められた。

総じて，買い物に行くときにリストを作る人ほど，遺伝子組換え食品に対して否定的反応を示している。すなわち，買い物リストの作成を「いつもする」人は遺伝子組換え食品を 40.3%が「絶対買いたくない」と答えているのに対し，買い物リストの作成を「しない」人は「是非買いたい」の割合が 7.0%と高くなっている。

第 34 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q30-2 浄水器を使ったり，ミネラルウォーターを買ったりすること」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q30-2 浄水器を使ったり，ミネラルウォーターを買ったりすること	いつもする	2.6%	13.5%	6.2%	34.9%	42.6%	718 (100%)
	しばしばする	1.9%	15.0%	10.5%	40.1%	32.3%	359 (100%)
	ときどきする	4.3%	21.3%	8.9%	39.9%	25.4%	393 (100%)
	ほとんどしない	4.2%	22.9%	8.6%	38.3%	25.7%	357 (100%)
	しない	7.3%	23.1%	7.3%	29.9%	32.1%	311 (100%)
	合計	81	389	172	782	714	2,138 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

浄水器やミネラルウォーターを日常的に利用している人ほど，遺伝子組換え食品の購入に関しては否定的である。すなわち，浄水器などの利用を「いつもする」人は，遺伝子組換え食品について，「是非買いたい」「買ってもよい」の割合が合わせて 16.1%であるのに対し，浄水器などの利用を「しない」人は同割合が 30.4%と増加している。
逆に言えば，浄水器やミネラルウォーターを利用していない人ほど，安価な遺伝子組換

え食品の購入に肯定的反応を示している。

第 35 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q30-3 有機食品を買うこと」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q30-3 有機食品を買うこと	いつもする	1.2%	4.6%	2.1%	17.3%	74.5%	236 (100%)
	しばしばする	2.0%	10.3%	6.2%	40.7%	40.7%	737 (100%)
	ときどきする	3.6%	22.9%	9.3%	40.4%	23.6%	774 (100%)
	ほとんどしない	4.6%	31.0%	13.2%	37.2%	13.8%	303 (100%)
	しない	24.1%	32.1%	8.0%	19.5%	16.0%	87 (100%)
	合計	81	387	170	784	715	2,137 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

予想されるとおり，有機食品を日常的に買う人ほど，遺伝子組換え食品に対して否定的反応を示している。すなわち，有機食品の購入を「いつもする」人は，74.5%が安価な遺伝子組換え食品を「絶対買いたくない」と回答しているのに対し，「しない」人は「絶対買いたくない」同割合が 16.0%に減少するとともに，「是非買いたい」の割合が 24.1%と最も高くなっている。

第 36 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q30-4 ファーストフードや調理済み食品を買って食べること」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q30-4 ファーストフードや調理済み食品を買って食べること	いつもする	20.3%	18.7%	9.3%	29.6%	21.8%	64 (100%)
	しばしばする	6.1%	27.0%	11.0%	36.1%	19.5%	470 (100%)
	ときどきする	2.7%	18.9%	7.5%	40.2%	30.5%	986 (100%)
	ほとんどしない	1.7%	11.0%	6.5%	33.5%	47.1%	507 (100%)
	しない	2.7%	6.3%	7.2%	22.5%	61.2%	111 (100%)
	合計	81	389	173	781	714	2,138 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

ファーストフードや調理済み食品を買う人ほど，遺伝子組換え食品に対して肯定的反応を示している。すなわち，ファーストフードを買って食べることを「いつもする」人は安価な遺伝子組換え食品を「是非買いたい」と「買ってもよい」の割合が合わせて 39.0%あるのに対し，「しない」人は同割合が 9.0%に減少し最も低くなる。

第 37 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q30-5 栄養補助食品（サプリ）を買うこと」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q30-5 栄養補助食品（サプリ）を買うこと	いつもする	5.5%	19.1%	9.5%	33.8%	31.8%	198 (100%)
	しばしばする	5.6%	19.1%	9.2%	38.7%	27.2%	356 (100%)
	ときどきする	2.7%	18.3%	8.3%	39.5%	30.9%	501 (100%)
	ほとんどしない	2.2%	19.3%	7.3%	39.3%	31.7%	585 (100%)
	しない	4.4%	15.8%	7.3%	29.9%	42.3%	491 (100%)
	合計	80	389	173	780	709	2,131 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

サプリを頻繁に買わない人のほうが，遺伝子組換え食品の購入について否定的である。つまり，サプリを買うことを「しない」と答えた人は，遺伝子組換え食品を 42.3%が「絶対買いたくない」と回答し，その割合は 10%ほど他の場合より高くなっている。

なお，サプリを買う人は健康を気にかけ，かつ栄養素を濃縮・抽出した高度な加工品の利用を気にしない人か，あるいは好ましく思う人である。サプリを買わない人は，健康を気にしない人，あるいは健康は気にするものの，高度に加工した食品は食べたくない人であろう。後者の，「人工的な」食品を嫌う人が，遺伝子組換え食品は「絶対買いたくない」と答えているのであろう。

第 38 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q30-6 栄養や原材料の情報を得るために，食品のラベル表示を見ること」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q30-6 栄養や原材料の情報を得るために，食品のラベル表示を見ること	いつもする	3.5%	10.2%	5.1%	31.0%	49.9%	869 (100%)
	しばしばする	2.6%	19.6%	8.9%	43.3%	25.4%	727 (100%)
	ときどきする	4.2%	27.4%	11.0%	38.9%	18.3%	426 (100%)
	ほとんどしない	7.4%	39.5%	16.0%	27.1%	9.8%	81 (100%)
	しない	31.8%	22.7%	9.0%	4.5%	31.8%	22 (100%)
	合計	81	386	172	774	712	2,125 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

総じて，栄養や原材料の情報を得るために食品のラベルをよく見る人ほど，遺伝子組換え食品に対して否定的反応を示している。すなわち，ラベルを見ることを「いつもする」人は，遺伝子組換え食品について，「絶対買いたくない」が 49.9%を占め，見る頻度が減少するほど，その割合も小さくなってくる。

ただし，見ることを「しない」人は 22 人であるが，31.8%が「是非買いたい」と答え，反面，31.8%が「絶対買いたくない」とも答え，回答が二分されている。この結果は，ラベルを見ない層には，安全性に関するスタンスが全く異なる人たちが混在するためと思わ

れる。つまり，先の第 25 表にもあるとおり，「安全性に関心が高いがラベルを信用しない」人は「絶対買いたくない」を選ぶ可能性が高いが，その反面，価格には関心が高いけれどもラベルは見ない人は，「是非買いたい」を選ぶ傾向が高いと思われるからである。

第 39 表　「Q24-12 遺伝子組換え食品には利点があるとしても，もとより自然界に反している」と「Q30-6 栄養や原材料の情報を得るために，食品のラベル表示を見ること」のクロス

		Q24-12遺伝子組換え食品には利点があるしても，もとより自然界に反している					
		全くそう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	全くそう思わない	合計
Q30-6 栄養や原材料の情報を得るために，食品のラベル表示を見ること	いつもする	53.7%	20.1%	11.4%	7.3%	7.2%	867 (100%)
	しばしばする	35.0%	34.5%	16.2%	9.6%	4.4%	724 (100%)
	ときどきする	25.9%	32.6%	26.6%	9.0%	5.7%	420 (100%)
	ほとんどしない	25.3%	27.8%	26.5%	17.7%	2.5%	79 (100%)
	しない	27.2%	22.7%	18.1%	0%	31.8%	22 (100%)
	合計	855	589	354	186	128	2,112 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

食品ラベルをよく見る人は，遺伝子組換え食品は自然界に反していると思う傾向があることが分かる。すなわち，ラベルを見ることを「いつもする」人は，53.7%が遺伝子組換え食品は自然界に反しているについて「全くそう思う」を選んでおり，ラベルを見ることを「ほとんどしない」人は，同割合が 25.3%にしか過ぎない。

第 40 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q30-7 食品の安全性の情報を得るために，食品のラベル表示を見ること」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q30-7 食品の安全性の情報を得るために，食品のラベル表示を見ること	いつもする	3.2%	9.6%	4.7%	31.1%	51.2%	861 (100%)
	しばしばする	1.8%	18.9%	9.7%	43.7%	25.7%	718 (100%)
	ときどきする	4.8%	28.2%	10.6%	39.6%	16.6%	414 (100%)
	ほとんどしない	7.2%	43.2%	12.6%	28.8%	8.1%	111 (100%)
	しない	40.7%	11.1%	7.4%	14.8%	25.9%	27 (100%)
	合計	80	387	171	782	711	2,131 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

第 38 表と同様に，食品の安全性の情報を得るために，食品のラベルをよく見る人ほど，遺伝子組換え食品に対して否定的反応を示している。すなわち，ラベルを見ることを「いつもする」人は，遺伝子組換え食品について，「絶対買いたくない」が 51.2%を占め，見る頻度が減少するほど，その割合も小さくなってくる。ただし，見ることを「しない」人は，40.7%が「是非買いたい」と答え，反面，25.9%が「絶対買いたくない」とも答え，回答が二分される点も，第 38 表と同様の傾向が見られる。

第 41 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q30-8 食物を買うときに，割引券や特売品を利用すること」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q30-8 食物を買うときに，割引券や特売品を利用すること	いつもする	9.9%	20.5%	9.9%	32.2%	27.3%	282 (100%)
	しばしばする	2.4%	21.8%	9.3%	38.9%	27.4%	747 (100%)
	ときどきする	2.7%	16.9%	6.8%	39.0%	34.3%	701 (100%)
	ほとんどしない	2.2%	12.2%	5.8%	33.9%	45.6%	309 (100%)
	しない	8.6%	9.7%	8.6%	22.8%	50.0%	92 (100%)
	合計	80	387	172	782	710	2,131 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

食料品の購入において割引券や特売品の利用頻度の高い人ほど，安価な遺伝子組換え食品に対する否定的反応が少ない傾向が見られる。つまり，割引券や特売品の利用において「いつもする」人は「絶対買いたくない」を選択した割合が 27.3%であるのに対し，「しない」人の同割合が 50.0%に増加している。この「しない」を選択した人は，そもそも価格によって購買行動があまり変化しない人たちであるから，遺伝子組換え食品が安価になったからといって，そのことが魅力にならないことも，このような結果になった一因と考えられる。

第 42 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q30-9 特売のときに，食べ物を買いだめしておくこと」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q30-9 特売のときに，食べ物を買いだめしておくこと	いつもする	10.2%	22.4%	7.6%	33.3%	26.2%	156 (100%)
	しばしばする	4.1%	22.9%	8.9%	38.0%	25.9%	505 (100%)
	ときどきする	2.4%	18.8%	10.1%	38.1%	30.4%	601 (100%)
	ほとんどしない	3.0%	15.5%	5.9%	39.0%	36.3%	622 (100%)
	しない	4.0%	9.3%	6.8%	26.3%	53.4%	247 (100%)
	合計	81	384	172	781	713	2,131 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

買いだめをする人ほど，安価な遺伝子組換え食品に関して購入意欲が高い傾向が見られる。つまり，特売のときに買いだめを「いつもする」人は，安い遺伝子組換え食品であれば「是非買いたい」と「買ってもよい」を合わせて 32.6%であり，最もこの割合が高くなっている。他方，買いだめを「しない」人は価格では動かないので，安いだけの遺伝子組換え食品ならば忌避する傾向にあり，「絶対に買いたくない」の割合が 53.4%と最も高い。

第 43 表　「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q30-10 日常品などを買うときに，お買い得品を探して何店かまわること」のクロス

		Q2-1通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q30-10 日常品などを買うときに，お買い得品を探して何店かまわること	いつもする	7.6%	19.6%	6.5%	31.1%	34.9%	183 (100%)
	しばしばする	2.4%	20.1%	12.1%	38.8%	26.4%	363 (100%)
	ときどきする	3.8%	20.0%	8.0%	40.5%	27.5%	548 (100%)
	ほとんどしない	3.2%	18.2%	8.1%	38.0%	32.2%	675 (100%)
	しない	4.1%	12.0%	4.6%	29.1%	50.0%	364 (100%)
	合計	81	386	172	783	711	2,133 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

第 42 表と類似の傾向を示し，お買い得品を探して店をよく回る人ほど，安価な遺伝子組換え食品に対する否定的反応が少ない傾向が見られる。つまり，お買い得品を探して店を回ることを「いつもする」人は，安価な遺伝子組換え食品について「是非買いたい」「買ってもよい」を選択した割合が合わせて 27.2%と最も高いのに対し，「しない」を選択した人は同割合が 16.1%と最も低くなっている。この「しない」を選択した人は，価格によって購買行動があまり変化しない人たちであるから，安さだけでは魅力にならないために，このような結果になったと考えられる。

3．遺伝子組換え食品が価格以外の特性でメリットをもつ場合のクロス集計結果

「ビタミン・栄養価等がかなり高い場合の遺伝子組換え食品」の場合についても，「価格がかなり安い遺伝子組換え食品の場合」のクロスとよく似た結果となった。そこで，以下では，「価格がかなり安い遺伝子組換え食品の場合」と比較して，特徴的な傾向を示したものを中心に，クロス集計の結果を示した。

1）栄養価がかなり高まった場合とのクロス集計結果

安価なホウレン草を買う人，トレーサビリティにおいて追跡可能性を重視する人は，遺伝子組換え技術で栄養価の高い食品ができた場合でも購入意欲が高かった。全体的に，遺伝子組換え食品について，栄養価が高まった場合の方が，価格が安くなった場合よりも，多少とも購入意欲が高まる傾向が読み取れる。

第 44 表　「Q2-2 通常の食品よりもビタミン・栄養価がかなり高い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q9 ホウレン草を買うとき，一束どのくらいの値段のものを買っていますか」のクロス

		Q2-2通常の食品よりもビタミン・栄養価がかなり高い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q9 ホウレン草を買うとき，一束どのくらいの値段のものを買っていますか	50円	25.0%	25.0%	12.5%	25.0%	12.5%	16 (100%)
	80円	4.2%	37.2%	8.5%	27.6%	22.3%	94 (100%)
	100円	7.3%	29.7%	12.5%	29.3%	21.0%	655 (100%)
	150円	6.5%	23.3%	10.7%	33.3%	26.0%	719 (100%)
	200円	4.2%	20.8%	11.2%	29.3%	34.3%	446 (100%)
	250円	2.3%	12.9%	5.8%	27.0%	51.7%	85 (100%)
	300円	0%	17.9%	2.5%	20.5%	58.9%	39 (100%)
	350円	8.3%	0%	25.0%	8.3%	58.3%	12 (100%)
	400円以上	33.3%	0%	0%	0%	66.6%	3 (100%)
	その他	9.3%	13.9%	4.6%	32.5%	39.5%	43 (100%)
	合計	130	519	230	639	594	2,112 (100%)

注）カイ２乗検定によれば1%水準で有意差が認められた。

安価なホウレン草を買う人は，「安い遺伝子組換え食品」のみならず「栄養価の高い遺伝子組換え食品」についても，同様に購入意欲が高いという傾向が見られた（第７表参照）。例えば 80 円のホウレンソウを買う人では 41.4%が，栄養価の高い遺伝子組換え食品について「是非買ってもよい」あるいは「買ってもよい」と答えた。一方，値段の高いホウレン草を買う人は，栄養価が高くても，より忌避する傾向が見られ，総じて「絶対買いたくない」をより選ぶ傾向にある。例えば 300 円のホウレンソウでは「是非買いたい」という回答はゼロであり，「絶対買いたくない」は 58.9%だった。高いホウレン草は，無農薬栽培などが多いことから，そのような野菜を買う層が遺伝子組換え食品を忌避していると考えられる。

第 45 表　「Q2-2 通常の食品よりもビタミン・栄養価がかなり高い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q12 トレーサビリティ，A（追跡可能性），B（顔の見える関係）どちらの目的がより重要ですか」のクロス

		Q2-2通常の食品よりもビタミン・栄養価がかなり高い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q12 トレーサビリティ，A（追跡可能性），B（顔の見える関係）どちらの目的がより重要ですか	Aが特に重要	11.7%	30.4%	8.7%	25.9%	23.1%	444 (100%)
	Aがより重要	6.3%	29.9%	14.6%	32.3%	16.6%	457 (100%)
	同程度重要	3.6%	23.5%	11.7%	28.8%	32.1%	654 (100%)
	Bがより重要	4.6%	17.3%	9.3%	37.3%	31.3%	364 (100%)
	Bが特に重要	4%	15.1%	6.6%	24.8%	49.3%	225 (100%)
	合計	131	523	232	644	614	2,144 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば1%水準で相関が認められた。

「A」の「追跡可能性」や回収を重視する人ほど，栄養価の高い遺伝子組換え食品に対する購入意欲が高い傾向が見られる。例えば，「A が特に重要」と答えた人は，42.1%が「是非買いたい」あるいは「買ってもよい」を選択した。一方，「B」の「顔の見える関係」を重視する人は，栄養価の高い遺伝子組換え食品であっても購入意欲が低く，「B が特に重要」と答えた人は，19.1%が「是非買いたい」あるいは「買ってもよい」を選択したに過ぎない。

顔写真を張った食品や生産者の名前が書いてある食品は，有機や無農薬に多い。また，表は省略したが「Q30-3 有機食品を買うこと」の頻度と「Q12 トレーサビリティの目的」をクロスさせると，有機食品の購入を「いつもする」層は 25.1%が「B が特に重要」とするのに対して，有機食品の購入を「まずしない」層は 8.0%しか「B が特に重要」と思っていない。このことからも，B の「顔の見える関係」を好む人は，有機食品を日常的に購入しており，それゆえ，遺伝子組換え食品を回避していると思われる。

第 46 表　「Q2-2 通常の食品よりもビタミン・栄養価がかなり高い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と国産品と比較して「Q19 どの程度であれば，外国産の食品を買ってもよいとお考えですか」のクロス

		Q2-2通常の食品よりもビタミン・栄養価がかなり高い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q19 どの程度であれば，外国産の食品を買ってもよいとお考えですか	値段が高くても外国産のものを買いたい	5.0%	13.5%	15.2%	37.2%	28.8%	59 (100%)
	同程度であれば外国産を買ってもよい	10.0%	29.6%	14.0%	28.7%	17.4%	476 (100%)
	5%安ければよい	12.3%	26.1%	10.7%	30.7%	20.0%	65 (100%)
	10%安ければよい	7.5%	32.2%	13.8%	28.0%	18.4%	239 (100%)
	20%安ければよい	7.2%	32.1%	12.4%	31.3%	16.7%	233 (100%)
	30%安ければよい	4.4%	26.6%	7.5%	37.7%	23.5%	225 (100%)
	50%安ければよい	4.4%	27.2%	14.7%	32.3%	21.3%	136 (100%)
	70%安ければよい	11.1%	33.3%	0%	22.2%	33.3%	9 (100%)
	90%安ければよい	8.3%	33.3%	0%	41.6%	16.6%	12 (100%)
	いくら安くても買いたくない	1.8%	13.5%	6.0%	27.8%	50.7%	532 (100%)
	よくわからない	3.2%	22.5%	19.3%	25.8%	29.0%	62 (100%)
	その他	5.3%	14.6%	5.3%	29.3%	45.3%	75 (100%)
	合計	128	519	230	641	605	2,123 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

国産品と比較して値段が「同程度であれば外国産を買ってもよい」と答えた人は，「絶対買いたくない」という割合が 17.4%と低い。他方，外国産を「いくら安くても買いたくない」と思う人は 50.7%が遺伝子組換え食品を「絶対買いたくない」と答えている。外国産農産物に農薬等の不安を感じる人は，遺伝子組換え食品も回避しているものと思われる。

「Q2-2 通常の食品よりもビタミン・栄養価がかなり高い場合，遺伝子組換え食品を買

いたいと思いますか」と Q24 にある一連の環境意識に関する各設問のクロス集計結果の傾向は，前述の「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と Q24 にある一連の設問のクロス集計結果とよく似ていた。ただし，「絶対買いたくない」の割合が数%減った。つまり，「値段の安い遺伝子組換え食品」よりは「栄養価が高い遺伝子組換え食品」の方が，相対的に好まれるという結果になった。

第 47 表　「Q2-2 通常の食品よりもビタミン・栄養価がかなり高い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-22 人間は環境をひどく乱用している」とのクロス

		Q2-2通常の食品よりもビタミン・栄養価がかなり高い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-22 人間は環境をひどく乱用している	全くそう思う	4.6%	19.5%	8.2%	28.8%	38.7%	1,133 (100%)
	多少そう思う	6.2%	30.5%	13.5%	33.1%	16.5%	733 (100%)
	どちらとも言えない	9.9%	29.8%	18.1%	28.6%	13.4%	171 (100%)
	余りそう思わない	17.2%	27.5%	13.7%	20.6%	20.6%	58 (100%)
	全くそう思わない	14.2%	22.8%	2.8%	22.8%	37.1%	35 (100%)
	合計	131	520	232	639	608	2,130 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

人間は環境を乱用していると思う人ほど，栄養価の高い遺伝子組換え食品に対しても否定的な傾向を示している。

この結果を，第 31 表の「Q2-1 通常の食品よりもかなり安い場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q24-22 人間は環境をひどく乱用している」のクロス集計結果と比較すれば，5%前後，「絶対買いたくない」「余り買いたくない」が減少し，「是非買いたい」「買ってもよい」が増加していることが読み取れる。

2）低農薬・低化学肥料あるいは無農薬で生産された場合とのクロス集計結果

「Q2-3 低農薬・低化学肥料で生産された場合の遺伝子組換え食品」あるいは「Q2-4 無農薬で生産された場合の遺伝子組換え食品」についても，ほとんどの項目で，「Q2-1 かなり安い場合の遺伝子組換え食品」や「Q2-2 ビタミン・栄養価がかなり高い場合の遺伝子組換え食品」とのクロス集計と類似した結果になった。ただし，無農薬の遺伝子組換え食品は，低農薬や栄養価の高い遺伝子組換え食品よりも，多少，購買意欲が上がっている。なお，遺伝子組換え食品について条件が満足できれば買ってよいとした人のうちでも，低農薬や無農薬という条件では満足できない人が存在する。彼らの求める条件は，「安全性」であり，これについては本章の４）で議論する。

第 48 表　「Q2-3 低農薬，低化学肥料で生産された場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか」と「Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか」のクロス

		Q2-3低農薬，低化学肥料で生産された場合，遺伝子組換え食品を買いたいと思いますか					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか	価格や品質，安全性などの条件が満足できれば，買ってもよい	8.9%	34.3%	19.8%	27.4%	9.4%	1,185 (100%)
	価格や品質，安全性などの条件がどんなに良くても，絶対に買いたくない	1.2%	2.3%	4.1%	32.8%	59.3%	798 (100%)
	よくわからない	3.0%	16.6%	24.0%	44.4%	11.7%	162 (100%)
	合計	121	453	307	659	605	2,145 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

遺伝子組換え食品について条件が満足できれば買ってよいとした人のうち，43.2%は，低農薬，低化学肥料で生産された遺伝子組換え食品ならば，「是非買いたい」あるいは「買ってもよい」と答えている。しかし，低農薬という条件では満足できない「絶対買いたくない」や「余り買いたくない」という層も 36.8%残っている。彼らはもっと別の条件を求めている。それは後述するが，「安全性」である。

第 49 表　「Q2-4 通常の食品と同じ価格で，無農薬・無化学肥料で生産された場合」と「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」とのクロス

		Q2-4通常の食品と同じ価格で，無農薬・無化学肥料で生産された場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか	スーパー	11.2%	29.0%	13.9%	26.7%	19.2%	1,428(100%)
	八百屋	10.7%	25.6%	13.2%	26.4%	24.0%	121(100%)
	地元の店	4.5%	12.7%	14.5%	29.1%	39.1%	110(100%)
	生協	7.8%	16.3%	9.8%	25.7%	40.4%	245(100%)
	Aコープ	3.8%	11.5%	11.5%	28.8%	44.2%	52(100%)
	安売りショップ	33.3%	16.7%	50.0%	0%	0%	6(100%)
	個人的な産直	1.9%	10.2%	8.3%	20.4%	59.3%	108(100%)
	手に入るので買う必要がない	9.7%	9.7%	12.9%	25.8%	41.9%	31(100%)
	その他	2.6%	10.5%	5.3%	18.4%	63.2%	38(100%)
	合計	207	524	279	560	569	2,139(100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

回答者の過半数を占めている「スーパーで買う」層では，無農薬で生産された遺伝子組換え食品について，40.2%が「是非買いたい」「買ってもよい」と回答し，「絶対買いたくない」は 19.2%である。それに対し，「個人的な産直」を利用する層では，59.3%が「絶対買いたくない」と答えている。産直等を利用する人は，単に無農薬であるだけでなく，産直のものにそれ以外の付加価値を高く評価する傾向が強いように見られる。

第 50 表　「Q2-4 通常の食品と同じ価格で，無農薬・無化学肥料で生産された場合」と「Q6 減農薬野菜や有機栽培野菜を，よく買いますか」のクロス

		Q2-4通常の食品と同じ価格で，無農薬・無化学肥料で生産された場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q6 減農薬野菜や有機栽培野菜を，よく買いますか	いつも買っている	6.2%	8.0%	4.7%	19.8%	61.0%	272 (100%)
	しばしば買う	8.5%	22.4%	9.4%	29.7%	29.7%	645 (100%)
	ときどき買う	10.5%	28.9%	15.1%	27.7%	17.7%	819 (100%)
	あまり買わない	8.8%	31.6%	20.4%	23.9%	15.0%	338 (100%)
	まず買わない	29.3%	20.6%	18.9%	10.3%	20.6%	58 (100%)
	合計	205	523	278	560	566	2,132 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

総じて，日常的に有機野菜を買っている層ほど，遺伝子組換え食品に対しての回避傾向が強い。つまり，有機栽培野菜等を「いつも買っている」層は，遺伝子組換え食品が無農薬栽培であっても「絶対買いたくない」と 61.0%が答えている。このことは，日常的に有機野菜を購入している人たちは，農産物の生産過程における農薬使用の有無だけを問題にしているのではなく，自然に対してなるべく人為的介入をしないことへの価値，などを重視しているのではないだろうか。他方，有機野菜等を「あまり買わない」層は，40.4%が「是非買いたい」か「買ってもよい」と答え，「絶対買いたくない」と回答したのは 15.0%に過ぎない。

なお，このような傾向は，Q6 と Q2-6（遺伝子組換え食品の安全性が高まった場合）のクロス集計でも見られたが，その場合は回避傾向が幾分か弱まっていた。（類似の傾向なので、クロス表は省略した。）

第 51 表　「Q2-4 通常の食品と同じ価格で，無農薬・無化学肥料で生産された場合」と「Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか」のクロス

		Q2-4通常の食品と同じ価格で，無農薬・無化学肥料で生産された場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか	価格や品質，安全性などの条件が満足できれば，買ってもよい	14.7%	39.5%	16.4%	21.1%	8.1%	1,180 (100%)
	価格や品質，安全性などの条件がどんなに良くても，絶対に買いたくない	2.7%	3.1%	5.7%	31.0%	57.2%	796 (100%)
	よくわからない	6.7%	20.3%	24.0%	39.5%	9.2%	162 (100%)
	合計	207	525	279	560	567	2,138 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

第 6 表の「Q2-1 かなり安い場合の遺伝子組換え食品」と比較して，無農薬で生産された遺伝子組換え食品の場合には，購入意欲が高まっている。例えば，「条件が満足できれ

ば買ってもよい」とした層のうち，第6表の場合には，「是非買いたい」「買ってもよい」の割合が合わせて 37.7%であったのに対し，この第 51 表の場合には，同割合が 54.2%へと増加している。

3)かなり美味しくなった場合とのクロス集計結果

「通常の食品と同じ価格で，かなり美味しい場合」のクロス集計の結果も，およその傾向は上述の表と同様である。つまり，日常的に有機野菜を購入しない人，大学院卒の人，若い人や高齢の人は，遺伝子組換え食品の購買意欲が相対的に高い傾向が見られた。

第 52 表　「Q2-5 通常の食品と同じ価格で，かなり美味しい場合」と「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1 番目)」のクロス

		Q2-5通常の食品と同じ価格で，かなり美味しい場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1番目)	味	9.3%	26.5%	12.5%	28.1%	23.4%	64 (100%)
	価格	13.7%	33.4%	20.4%	20.4%	11.9%	284 (100%)
	栄養	8.0%	20.0%	20.0%	28.0%	24.0%	25 (100%)
	安全性	3.6%	12.1%	8.3%	27.2%	48.6%	771 (100%)
	鮮度	8.8%	28.6%	16.6%	28.7%	17.0%	989 (100%)
	合計	163	494	300	577	599	2,133 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

生鮮野菜を買うときに，「価格」に気をつける層は，遺伝子組換え食品がかなり美味しい場合，47.1%が「是非買いたい」または「買ってもよい」と答えた。かなり美味しい遺伝子組換え食品という設問であるから，味を重視する人の購入意欲が高いと思われたが，「味」を重視する人の同割合は 35.8%であった。

第 53 表　「Q2-5 通常の食品と同じ価格で，かなり美味しい場合」と「Q6 減農薬野菜や有機栽培野菜を，よく買いますか」のクロス

		Q2-5通常の食品と同じ価格で，かなり美味しい場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q6 減農薬野菜や有機栽培野菜を，よく買いますか	いつも買っている	3.3%	8.8%	3.3%	18.8%	65.6%	271 (100%)
	よく買う	5.4%	17.9%	13.1%	31.7%	31.7%	646 (100%)
	ときどき買わない	8.2%	27.2%	17.1%	28.8%	18.4%	822 (100%)
	あまり買わない	8.9%	34.3%	17.6%	23.5%	15.5%	335 (100%)
	全く買わない	33.3%	29.8%	12.2%	7.0%	17.5%	57 (100%)
	合計	161	496	301	576	597	2,131 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

有機野菜を日常的に買う人ほど，遺伝子組換え食品を回避する傾向にある。つまり，減農薬野菜を「いつも買っている」人は，12.1%が「是非買いたい」または「買ってもよ

い」と答えたのに対し，有機野菜等を「全く買わない」人では，同割合が 63.1%と増加している。

第 54 表　「Q2-5 通常の食品と同じ価格で，かなり美味しい場合」と「Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか」のクロス

		Q2-5通常の食品と同じ価格で，かなり美味しい場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか	価格や品質，安全性などの条件が満足できれば，買ってもよい	12.1%	37.7%	18.5%	23.0%	8.5%	1,181(100%)
	価格や品質，安全性などの条件がどんなに良くても，絶対に買いたくない	1.2%	3.0%	5.5%	29.3%	60.8%	794(100%)
	よくわからない	6.1%	16.6%	24.0%	43.8%	9.2%	162(100%)
	合計	163	497	302	576	599	2,137(100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

遺伝子組換え食品が「Q2-5　かなり美味しい場合」は，「Q2-3　減農薬・減化学肥料で生産された場合」（第 48 表参照）よりは回避的傾向が少なく，「Q2-4　無農薬で生産された場合」（第 51 表参照）よりは回避的傾向が表れている。つまり，条件が満足されれば買ってもよいと考える層のうち，かなり美味しい場合には「是非買いたい」「買ってもよい」と答えたのは 49.8%であり，減農薬の場合には同割合が 43.2%，無農薬の場合には同割合が 54.2%と両者の中間に位置する程度の好ましさであることがわかる。

第 55 表　「Q2-5 通常の食品と同じ価格で，かなり美味しい場合」と「Q24-4 人間の食に供される家畜は，望ましい飼養環境の下で飼育されている」のクロス

		Q2-5通常の食品と同じ価格で，かなり美味しい場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-4 人間の食に供される家畜は，望ましい飼養環境の下で飼育されている	全くそう思う	12.1%	21.2%	18.1%	15.1%	33.3%	33 (100%)
	多少そう思う	15.0%	32.1%	13.6%	30.1%	8.9%	146 (100%)
	どちらとも言えない	9.4%	33.6%	15.8%	24.8%	16.1%	668 (100%)
	余りそう思わない	5.7%	20.1%	14.6%	30.3%	29.0%	906 (100%)
	全くそう思わない	5.7%	8.3%	9.1%	22.7%	53.9%	382 (100%)
	合計	163	494	300	577	601	2,135 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

家畜は望ましい飼養環境下にあるについて否定的見解を持っている人ほど，遺伝子組換え食品についても否定的反応を示す傾向が見られる。すなわち，家畜は望ましい飼養環境で飼育されているについて，サンプル数の少ない「全くそう思う」を除き，「多少そう思う」の場合は，かなり美味しい遺伝子組換え食品について，「絶対買いたくない」を 8.9

%が選択したのに対し，「全くそう思わない」の場合は同割合が 53.9%へと大きく増加している。

第 56 表　「Q2-5 通常の食品と同じ価格で，かなり美味しい場合」と「Q26 年齢」のクロス

		Q2-5通常の食品と同じ価格で，かなり美味しい場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q26 年齢	18才-24才	14.0%	21.8%	18.7%	21.8%	23.4%	64 (100%)
	25才-34才	8.2%	21.5%	19.8%	28.1%	22.1%	338 (100%)
	35才-44才	6.1%	21.7%	14.3%	24.6%	33.0%	620 (100%)
	45才-54才	6.1%	21.4%	11.2%	29.9%	31.2%	615 (100%)
	55才-64才	9.2%	24.0%	12.8%	28.5%	25.3%	312 (100%)
	65才-74才	11.8%	33.5%	13.8%	23.0%	17.7%	152 (100%)
	75才以上	13.3%	46.6%	13.3%	20.0%	6.6%	15 (100%)
	無回答	7.1%	50.0%	14.2%	7.1%	21.4%	14 (100%)
	合計	163	494	302	574	597	2,130 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

かなり美味しい遺伝子組換え食品について，購買意欲は年齢による有意な差が見られ，特に，現役世代で遺伝子組換え食品に対して否定的傾向が強かった。すなわち，18-24 歳の場合，「是非買いたい」が 14.0%なのに対して，35-44 歳と 45-54 歳では両者とも同割合が 6.1%と少なく，「絶対買いたくない」の割合が 30%以上である。65 歳以上は若い世代よりさらに好意的で，「絶対買いたくない」の割合が 20%未満である。

第 57 表　「Q2-5 通常の食品と同じ価格でかなり美味しい場合」と「Q32 教育過程」のクロス

		Q2-5通常の食品と同じ価格で，かなり美味しい場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q32 教育過程	中学・高等学校	9.2%	25.3%	13.6%	26.2%	25.4%	651 (100%)
	専門学校・短期大学	4.8%	22.2%	12.6%	33.4%	26.7%	449 (100%)
	大学	7.2%	21.9%	15.0%	25.6%	30.0%	842 (100%)
	大学院以上	13.5%	27.1%	14.8%	20.9%	23.4%	81 (100%)
	無回答	5.4%	21.7%	17.3%	18.4%	36.9%	92 (100%)
	合計	159	492	301	571	592	2,115 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

「大学院以上」になると，かなり美味しい遺伝子組換え食品について「是非買いたい」が増えて 13.5%となる。他方，「専門学校・短期大学」や「大学」層は，「是非買いたい」「買ってもよい」がやや少なく，否定的傾向が見られる。

4）食の安全性が通常の食品（遺伝子を組換えしない食品）より高まった場合とのクロス集計結果

以下では，遺伝子組換え食品について，「通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」についてクロス集計結果を見ていく。

食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合には，遺伝子組換え食品に対する購買意欲が高まる傾向が読み取れる。つまり，通常の食品にもなんらかの危険性があるため，通常の食品の持つ危険性（例えば，天然毒，食中毒，カビの繁殖による発がん性物資，不注意あるいは人為的ミスによる残留農薬等）と比較して，遺伝子組換え食品のもつ安全性がきちんと消費者に伝われば，あるいは，通常の食品に含まれる安全性の問題を解決した遺伝子組換え食品が開発・提供され，消費者にその安全性や有用性の証明が納得されれば，遺伝子組換え食品は消費者に受け入れられる可能性が高いことが分かる。また，食品添加物について心配している人でも，通常の食品よりも安全性の高い遺伝子組換え農産物が提供されれば，約半数の人が遺伝子組換え食品を購入してもよいと考えている。

他方，食品ラベルを信頼しているその理由として，生産地表示をより信頼する人は，有機農産物の購入頻度が高い人と，食品ラベルの表示を含め社会への信頼が高い人が混ざっている可能性が考えられる。そして，前者の人は遺伝子組換え食品の受容性が低く，後者の人はそれが高いと予想される。

第 58 表　「Q2-6 通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」と「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」のクロス

		Q2-6通常の食品と同じ価格で，通常の食品よりも食の安全性が高い場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか	スーパー	26.7%	38.8%	12.3%	11.5%	10.6%	1,429 (100%)
	八百屋	19.8%	38.8%	11.6%	11.6%	18.2%	121 (100%)
	地元の店	14.4%	34.2%	11.7%	15.3%	24.3%	111 (100%)
	生協	17.6%	28.6%	13.1%	13.9%	26.9%	245 (100%)
	Aコープ	15.4%	38.5%	7.7%	17.3%	21.2%	52 (100%)
	安売りショップ	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%	6 (100%)
	個人的な産直	6.4%	20.9%	9.1%	21.8%	41.8%	110 (100%)
	手に入るので買う必要がない	9.7%	35.5%	19.4%	9.7%	25.8%	31 (100%)
	その他	15.8%	15.8%	10.5%	13.2%	44.7%	38 (100%)
	合計	489	774	260	271	349	2,143 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

遺伝子組換え食品について，低価格，減農薬，無農薬，美味しいといったメリットを仮定した Q2-1～5 の場合と異なり，通常の食品よりも安全性がより高まった場合には，遺伝子組換え食品に対する購買意欲が大幅に増加し，全体で「是非買いたい」を選択した人は 489 人（22.8%），「買ってもよい」を選択した人は 774 人（36.1%）となり，肯定的な回

答が半数を超えている。

特に，「スーパー」利用者の65.5%が，「是非買いたい」または「買ってもよい」と回答した。他方，これまで遺伝子組換え食品に対して否定的傾向の強かった「個人的な産直」利用者でも，同割合が27.3%と4分の1以上が肯定的な反応を示しているものの，産直利用者は，「絶対買いたくない」「余り買いたくない」の合計が63.6%と，根強い否定的傾向が見られる。

第59表　「Q2-6 通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」と「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1番目）」のクロス

		Q2-6通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高い場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1番目）	味	18.7%	32.8%	15.6%	18.7%	14.0%	64 (100%)
	価格	33.7%	38.3%	12.5%	8.7%	6.6%	287 (100%)
	栄養	34.6%	38.4%	7.6%	3.8%	15.3%	26 (100%)
	安全性	14.6%	28.5%	11.5%	16.2%	28.9%	770 (100%)
	鮮度	26.0%	41.2%	12.4%	10.8%	9.3%	991 (100%)
	合計	489	770	260	271	348	2,138 (100%)

注）カイ2乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。

生鮮野菜を買うときに，「価格」を重視する層では33.7%が，「栄養」を重視する層は34.6%が「是非買いたい」と答えている。

第60表　「Q2-6 通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」と「Q7 生産者名や農薬・肥料の使用状況が確認できる生鮮野菜を，よく買いますか」のクロス

		Q2-6通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高い場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q7 生産者名や農薬・肥料の使用状況が確認できる生鮮野菜を，よく買いますか	いつも買っている	14.6%	18.9%	8.6%	15.0%	42.6%	253 (100%)
	しばしば買う	20.7%	32.7%	13.5%	14.2%	18.7%	700 (100%)
	ときどき買う	23.8%	42.4%	11.6%	11.6%	10.4%	816 (100%)
	あまり買わない	27.7%	42.0%	12.1%	11.7%	6.3%	314 (100%)
	まず買わない	43.1%	31.0%	15.5%	3.4%	6.8%	58 (100%)
	合計	489	773	259	272	348	2,141 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば1%水準で相関が認められた。

生産者名を確認できる野菜を買う人ほど，安全性が高まった場合でも，遺伝子組換え食品を買いたくないという傾向が読み取れる。すなわち，生産者名を確認できる野菜を「いつも買っている」層は，安全性がより高まった遺伝子組換え食品について「是非買いたい」が14.6%，「絶対買いたくない」が42.6%であるのに対し，「まず買わない」層では「是非買いたい」が43.1%，「絶対買いたくない」が6.8%と，割合が逆転している。

第 61 表　「Q2-6 通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」と「Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか」のクロス

		Q2-6通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高い場合					
Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
	十分信頼している	29.7%	14.8%	9.4%	12.1%	33.7%	74 (100%)
	おおむね信頼している	22.2%	33.7%	12.2%	13.2%	18.4%	687 (100%)
	信頼している	23.7%	38.6%	11.9%	12.3%	13.3%	585 (100%)
	あまり信頼していない	21.0%	38.7%	11.9%	13.5%	14.6%	678 (100%)
	ほとんど信頼していない	27.9%	34.2%	15.3%	6.3%	16.2%	111 (100%)
	合計	488	770	259	271	347	2,135 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 10%水準でも相関が認められなかったが，カイ２乗検定によれば１%水準で有意差が見られた。

生産地等の表示を「十分信頼している」人は，「絶対買いたくない」と「余り買いたくない」を合わせた割合が 45.8%あるのに対し，「ほとんど信頼していない」層では同割合が 22.5%と半減している。そのため，安価な遺伝子組換え食品との相関を検討した第 4 表と同様に，「生産地等の表示を信頼する人ほど，通常の食品よりも安全な遺伝子組換え食品でも買わない」という傾向を示すように思われた。しかし，スピアマン順位相関係数の有意性検定の結果，そのような傾向は見られなかった。

その理由として，生産地等を信頼している人のうち，遺伝子組換え食品について買いたくないと回答した人の割合が，安価な場合に比較して，通常の食品よりも安全な場合には，半減したことが挙げられるであろう。

また，生産地表示をより信頼する人は，有機農産物の購入頻度が高い人と，社会への信頼が高い人が混ざっている可能性が考えられる。そして，前者の人は遺伝子組換え食品の受容性が低く，後者の人はそれが高いと予想される。したがって，遺伝子組換え食品について通常の食品よりも安全性が高まった場合には，遺伝子組換え食品の購買意欲に対して異なる傾向をもつ人々の考え方が相反する方向に強く重なったために，生産地表示への信頼と遺伝子組換え食品の購入意欲について明白な相関関係が見られなかったと思われる。

第 62 表　「Q2-6 通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」と「Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか」のクロス

		Q2-6通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高い場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか	価格や品質，安全性などの条件が満足できれば，買ってもよい	38.3%	49.8%	7.8%	3.1%	0.8%	1,184 (100%)
	価格や品質，安全性などの条件がどんなに良くても，絶対に買いたくない	2.3%	13.8%	15.4%	26.5%	41.8%	796 (100%)
	よくわからない	10.4%	46.2%	25.9%	14.1%	3.0%	162 (100%)
	合計	490	775	258	271	348	2,142 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

「条件が満足できれば買ってもよい」という層では「絶対買いたくない」という回答が 0.8%で，「余り買いたくない」も 3.1%しかない。したがって「通常の食品よりも安全な遺伝子組換え食品」という条件は，この層のほぼ全員が満足できる条件であると思われる。

このことは，「条件が満足できれば買ってもよい」とした層のうち，第 6 表の「Q2-1 かなり安い場合の遺伝子組換え食品」の場合には，「是非買いたい」「買ってもよい」の割合が合わせて 37.7%であったのに対し，無農薬の遺伝子組換え食品の場合（第 51 表参照）には同割合が 54.2%となり，通常の食品よりも安全性がより高まった第 62 表の場合には，88.1%までに増加していることからも窺える。

他方，「条件がどんなに良くても絶対買いたくない」とした層のうち，安価な遺伝子組換え食品を提示した第 6 表の場合には「余り買いたくない」「絶対買いたくない」の割合が合わせて 97.5%であったのに対し，無農薬の遺伝子組換え食品（第 51 表）の場合には同割合が 88.2%と減少し，通常の食品よりも安全性がより高まった第 62 表の場合には 68.3%まで減少している。また，第 62 表では，「是非買いたい」「買ってもよい」の割合も合わせて 16.1%となっている。このことから，遺伝子組換え食品について絶対買いたくないと思っている人の中でも，通常の食品よりも安全性がより高まったならば，買ってもよいと思っている人がいることがわかる。

第 63 表　「Q2-6 通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」と「Q24-1 地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものだ」のクロス

		Q2-6通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高い場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-1 地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものだ	全くそう思う	24.7%	32.6%	10.7%	13.2%	18.6%	1,476 (100%)
	多少そう思う	17.4%	47.8%	13.9%	11.0%	9.6%	487 (100%)
	どちらとも言えない	21.6%	30.1%	17.9%	15.0%	15.0%	106 (100%)
	余りそう思わない	21.2%	36.1%	21.2%	8.5%	12.7%	47 (100%)
	全くそう思わない	33.3%	16.6%	25.0%	0%	25.0%	12 (100%)
	合計	487	766	258	269	348	2,128 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

ここでも，地球は限られた宇宙船のようだと思う層ほど，通常の食品よりも食の安全性が高まった遺伝子組換え食品でも買いたくないという傾向が見られる。ただし，「Q2-1 かなり安い場合に遺伝子組換え食品」と「Q24-1」のクロス集計結果（第 12 表参照）と比較するならば，「地球は限られた資源をもつ宇宙船のようなもの」に対する同意の程度にかかわらず，どの階層でも，「是非買いたい」が増えて，「絶対買いたくない」が 20%程度減っている。

第 64 表　「Q2-6 通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」と「Q24-5 現在使用されている食品添加物で，自分の健康が害されることはないと思う」のクロス

		Q2-6通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高い場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-5 現在使用されている食品添加物で，自分の健康が害されることはないと思う	全くそう思う	43.7%	27.0%	8.3%	4.1%	16.6%	48 (100%)
	多少そう思う	31.3%	37.8%	11.2%	10.6%	8.8%	169 (100%)
	どちらとも言えない	28.7%	45.7%	10.9%	8.8%	5.8%	431 (100%)
	余りそう思わない	21.5%	40.1%	14.1%	13.1%	10.9%	747 (100%)
	全くそう思わない	17.3%	26.6%	11.2%	15.5%	29.1%	744 (100%)
	合計	488	772	260	272	347	2,139 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

食品添加物で自分の健康が害されないと思う層ほど，通常の食品よりも食の安全性がより高まった遺伝子組換え食品に対する購買意欲は高くなっている。特に，「食品添加物で，自分の健康が害されることはない」について「全くそう思わない」と考える人，つまり，食品添加物の安全性について心配している人でも，通常の食品よりも安全性が高まった遺伝子組換え食品については，「是非買いたい」または「買ってもよい」を合わせて 43.9%の人が選択していることは，安全性が遺伝子組換え食品の購買に与える影響の重要性を物語るものであろう。また，安価な遺伝子組換え食品の場合とのクロス集計結果（第 16 表）

と比較しても，20～30%程度，「是非買いたい」人の割合が増加していることがわかる。

第 65 表　「Q2-6 通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」と「Q24-8 遺伝子組換え技術を食料生産に使用するならば，世界の食料問題の解決に役立つ」のクロス

		Q2-6通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高い場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-8 遺伝子組換え技術を食料生産に使用するならば，世界の食料問題の解決に役立つ	全くそう思う	61.9%	21.0%	4.0%	7.4%	5.4%	147 (100%)
	多少そう思う	38.8%	45.5%	7.8%	5.0%	2.7%	512 (100%)
	どちらとも言えない	22.5%	44.9%	14.3%	11.4%	6.6%	585 (100%)
	余りそう思わない	9.9%	38.1%	19.3%	20.0%	12.4%	433 (100%)
	全くそう思わない	4.5%	16.0%	9.6%	17.6%	52.0%	436 (100%)
	合計	485	762	256	268	342	2,113 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

遺伝子組換え技術が世界の食料問題の解決に役立つと考える層ほど，食の安全性がより高まった遺伝子組換え食品に対する購買意欲は高くなっている。すなわち，遺伝子組換え技術が食料問題解決に役立つことについて「全くそう思う」層では，安全性の高まった遺伝子組換え食品に対し，「是非買いたい」「買ってもよい」と考える人は 82.9%もいる。しかし，役立たないと思っている「全くそう思わない」層は 52.0%が「絶対買いたくない」と答えている。

そもそも遺伝子組換え技術について否定的な見解をもつ人は，遺伝子組換え技術は世界の食料問題に貢献しないし，自分自身も組み換え食品を買いたくないと考えているのではなかろうか。しかしながら，食料問題解決に役立つ具体的な実例が広く知られるようになれば，イメージが改善され，購入意欲が高まるかもしれない。

第 66 表　「Q2-6 通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」と「Q24-14 食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる」のクロス

		Q2-6通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高い場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q24-14 食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる	全くそう思う	52.9%	17.6%	5.8%	17.6%	5.8%	17 (100%)
	多少そう思う	24.0%	39.0%	11.2%	12.0%	13.6%	366 (100%)
	どちらとも言えない	24.9%	34.5%	12.8%	12.8%	14.7%	717 (100%)
	余りそう思わない	20.4%	38.8%	13.1%	14.3%	13.1%	761 (100%)
	全くそう思わない	20.2%	26.7%	9.1%	9.1%	34.7%	262 (100%)
	合計	485	760	258	272	348	2,123 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

食品ラベルの表示を信頼する人ほど，通常の食品より食の安全性がより高まった遺伝子組換え食品を買ってもよいと考える傾向にある。つまり，食品ラベルは信頼できるについて「全くそう思う」を選択した人は，70.5%が安全性のより高まった遺伝子組換え食品を「是非買いたい」あるいは「買ってもよい」と答えた。

他方，食品ラベルを信頼できるについて「全くそう思わない」を選択した人は，同割合が46.9%であり，「余り買いたくない」「絶対買いたくない」を合わせると43.8%であるから，購入派，非購入派がほぼ同数となっている。ただし，表示ラベルを信頼しない人は，回答者全体の傾向からみれば，遺伝子組換え食品について否定的傾向が強いことが読み取れる。

また，飲食店（第17表），政府（第28表），科学者（第29表），生産者（第30表）のところで見てきたとおり，組織や社会を信頼する人ほど，遺伝子組換え食品の受容性が高い傾向にあると言えよう。

第67表　「Q2-6通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」と「Q26年齢」のクロス

	Q2-6通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高い場合						
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q26 年齢	18才-24才	41.5%	36.9%	7.6%	6.1%	7.6%	65 (100%)
	25才-34才	26.6%	33.4%	13.6%	13.0%	13.3%	338 (100%)
	35才-44才	18.0%	35.8%	12.0%	14.5%	19.5%	620 (100%)
	45才-54才	19.6%	35.9%	11.5%	14.5%	18.3%	617 (100%)
	55才-64才	24.5%	35.9%	14.9%	11.1%	13.3%	314 (100%)
	65才-74才	33.5%	40.1%	9.8%	4.6%	11.8%	152 (100%)
	75才-84才	40.0%	53.3%	0%	0%	6.6%	15 (100%)
	無回答	28.5%	42.8%	7.1%	7.1%	14.2%	14 (100%)
	合計	488	769	260	271	347	2,135 (100%)

注）カイ2乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。

若年層と年配層では「是非買いたい」という声が高い。例えば，65-74才の層では「是非買いたい」と「買ってもよい」を合わせると73.6%もの人が肯定的にとらえている。同様に18-24才層では同割合が78.4%と肯定的である。

しかし，35才～54才にかけてはそれほど，遺伝子組換え食品に対する購入意欲は高くない。例えば，45-54才層では，先の割合が55.5%であり，買いたい人の割合が減少している。

第 68 表　「Q2-6 通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」と「Q30-8 食物を買うときに，割引券や特売品を利用すること」のクロス

		Q2-6通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高い場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q30-8 食物を買うときに，割引券や特売品を利用すること	いつもする	35.3%	30.7%	12.7%	9.8%	11.3%	283 (100%)
	しばしばする	22.4%	39.7%	12.5%	11.8%	13.4%	744 (100%)
	ときどきする	20.6%	38.1%	11.4%	13.3%	16.4%	699 (100%)
	ほとんどしない	17.7%	28.7%	14.1%	16.1%	23.2%	310 (100%)
	しない	20.2%	30.3%	6.7%	12.3%	30.3%	89 (100%)
	合計	484	766	259	270	346	2,125 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

食物を買うときに，割引券や特売品を利用する頻度が高い人ほど，通常の食品より食の安全性が高まった場合での遺伝子組換え食品に対する購買意欲が高いという関係が見られた。つまり，割引券の使用を「いつもする」人は，通常の食品より安全性が高まった遺伝子組換え食品に対して，「是非買いたい」が 35.3%，「絶対買いたくない」が 11.3%であるのに対して，割引券の使用を「しない」人は，「是非買いたい」が 20.2%，「絶対買いたくない」が 30.3%と，割引券を利用しない人ほど遺伝子組換え食品を買いたがらない傾向が読み取れる。

第 69 表　「Q2-6 通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」と「Q30-9 特売のときに，食べ物を買いだめしておくこと」のクロス

		Q2-6通常の食品と同じ価格で，食の安全性は通常の食品よりも場合					
		是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	余り買いたくない	絶対買いたくない	合計
Q30-8 特売のときに，食べ物を買いだめしておくこと	いつもする	39.1%	28.0%	12.1%	8.3%	11.5%	156 (100%)
	しばしばする	26.3%	37.4%	11.8%	11.8%	12.4%	505 (100%)
	ときどきする	19.6%	41.5%	13.3%	12.3%	13.1%	600 (100%)
	ほとんどしない	20.3%	36.0%	12.4%	14.4%	16.6%	618 (100%)
	しない	19.5%	23.5%	9.3%	13.4%	34.1%	246 (100%)
	合計	486	764	259	269	347	2,125 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

食物を買うときに，特売のときに食べ物を買いだめする頻度が高い人ほど，通常の食品より食の安全性が高まった場合での遺伝子組換え食品に対する購買意欲が高いという関係が見られた。つまり，買いだめを「いつもする」人は，安全性が高まった遺伝子組換え食品に対して，「是非買いたい」が 39.1%，「絶対買いたくない」が 11.5%であるのに対して，買いだめを「しない」人は，「是非買いたい」が 19.5%，「絶対買いたくない」が 34.1%と，買いだめをしない人ほど遺伝子組換え食品を買いたがらない傾向が読み取れる。

4. 生鮮野菜を購入する店とのクロス集計結果

1）生鮮野菜に関する購買行動や意識とのクロス集計結果

生鮮野菜を購入する店とのクロス集計結果から，次のような傾向が見られた。まず，「スーパー」利用者層と全く異なる価値観を持つのが，「A コープ」・「産直」・「その他」である。この３層は，飲食店や科学者や生産者など社会全体に不信感をいだき，添加物を恐れ，遺伝子組換え食品を拒否し，有機野菜等を好み，環境問題を非常に不安に思っている層である。ただし，「A コープ」では有機野菜の購買意欲はあまり高くない。

他方，全回答者の過半数を占める多数派である「スーパー」利用者は，これらの問題について比較的おおらかに考えている。「生協」利用者層は，スーパー利用層より食の安全に対して関心が高い反面，「A コープ」利用者層より環境や添加物への不安感が低いようであった。

特徴的なのが「手に入るので買わない」人たちであった。この層は，環境問題について他の層ほどは心配しておらず，飲食店や科学者や生産者など社会をより信頼する傾向が強いが，遺伝子組換え食品については否定的である。以下では、このような結果について詳細に検討していこう。

第 70 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1 番目）」のクロス

		Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか									
Q4-1 生鮮野菜を買うとき，あなたが気をつけていることについて（1番目）		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
	味	3.1%	4.1%	3.6%	1.6%	1.9%	0%	3.6%	3.3%	2.6%	64
	価格	16.5%	16.4%	10.8%	3.6%	1.9%	33.3%	0%	13.3%	2.6%	285
	栄養	1.3%	4.1%	0%	0.8%	0%	0%	0%	0%	2.6%	26
	安全性	27.1%	22.1%	41.4%	62.3%	59.6%	16.7%	79.1%	43.3%	76.9%	776
	鮮度	52.0%	53.3%	44.1%	31.6%	36.5%	50.0%	17.3%	40.0%	15.4%	992
	合計	1,426 (100%)	122 (100%)	111 (100%)	247 (100%)	52 (100%)	6 (100%)	110 (100%)	30 (100%)	39 (100%)	2,143 (100%)

注）カイ２乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

生鮮野菜を買うとき「スーパー」や「八百屋」を利用する人は，第一に重視するものとして「鮮度」を挙げた割合が 50%を超えたが，「生協」を利用する人は「安全性」と答えた人の割合が 62.3%であった。特に「個人的な産直」では 79.1%，「その他」では 76.9%が安全性を挙げている。いくつか具体的購入先を書いた例を見ると，「個人的な産直」では有機野菜宅配業者の名称が見られ，「その他」では自然食品店・有機専門店などの記入例が多かった。

第 71 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q6 減農薬野菜や有機栽培野菜を，よく買いますか」のクロス

		Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか									
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
Q6 減農薬野菜や有機栽培野菜を，よく買いますか	いつも買っている	5.4%	6.5%	18.9%	29.1%	25.0%	0%	54.5%	3.2%	53.8%	274
	よく買う	28.6%	30.9%	33.3%	40.5%	34.6%	16.7%	28.2%	19.4%	23.1%	649
	ときどき買う	43.6%	43.9%	30.6%	24.7%	23.1%	50.0%	13.6%	41.9%	15.4%	823
	あまり買わない	19.3%	13.0%	13.5%	4.0%	15.4%	33.3%	2.7%	16.1%	5.1%	338
	全く買わない	2.7%	5.7%	1.8%	0.8%	1.9%	0%	0.9%	16.1%	2.6%	58
	合計	1,428 (100%)	123 (100%)	109 (100%)	245 (100%)	52 (100%)	6 (100%)	110 (100%)	30 (100%)	39 (100%)	2,142 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

「個人的な産直」の利用者は，有機野菜を「いつも買っている」と 54.5%の人が答えた。他方，「スーパー」の利用者では，有機野菜を「ときどき買う」が最も割合が高く 43.6%であった。

第 72 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか」のクロス

		Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか									
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか	十分信頼している	2.0%	0.8%	1.8%	5.3%	9.6%	0%	15.5%	3.4%	15.4%	74
	おおむね信頼している	28.2%	28.5%	35.1%	48.8%	34.6%	0%	45.5%	20.7%	48.7%	689
	信頼している	28.9%	31.7%	20.7%	26.0%	19.2%	33.3%	23.6%	17.2%	15.4%	587
	あまり信頼していない	35.1%	30.9%	36.9%	17.9%	34.6%	33.3%	12.7%	48.3%	17.9%	678
	ほとんど信頼していない	5.7%	8.1%	5.4%	2.0%	1.9%	33.3%	2.7%	10.3%	2.6%	112
	合計	1,424 (100%)	123 (100%)	111 (100%)	246 (100%)	52 (100%)	6 (100%)	110 (100%)	29 (100%)	39 (100%)	2,140 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

「スーパー」の利用者では，生産地や有機等の表示を「あまり信頼していない」（35.1%）が最も多かったが，「生協」・「個人的な産直」・「その他」の層は，生産地や有機等の表示を信頼する傾向が強く，「十分信頼している」「おおむね信頼している」を合わせた割合は約 50%～60%である。

第 73 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q9 ホウレン草を買うとき，一束どのくらいの値段のものを買っていますか」のクロス

		Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか									
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
Q9 ホウレン草を買うとき，一束どのくらいの値段のものを買っていますか	50円	0.8%	0.0%	2.7%	0.4%	2.0%	0%	0%	0%	0%	16
	80円	5.2%	4.1%	4.5%	2.5%	2.0%	0%	1.9%	3.4%	2.6%	94
	100円	33.8%	37.4%	32.7%	14.1%	44.9%	16.7%	21.3%	27.6%	18.4%	654
	150円	34.9%	34.1%	30.0%	35.7%	30.6%	83.3%	25.9%	48.3%	7.9%	719
	200円	19.2%	20.3%	20.0%	32.4%	12.2%	0%	25.9%	13.8%	36.8%	448
	250円	2.4%	1.6%	5.5%	9.5%	6.1%	0%	12.0%	0%	10.5%	85
	300円	1.3%	0.8%	1.8%	3.3%	0%	0%	4.6%	0%	10.5%	39
	350円	0.6%	0%	0%	0%	2.0%	0%	1.9%	0%	5.3%	13
	400円以上	0.1%	0%	0%	0%	0%	0%	1.9%	0%	0%	3
	その他	1.7%	1.6%	2.7%	2.1%	0%	0%	4.6%	6.9%	7.9%	44
	合計	1,411 (100%)	123 (100%)	110 (100%)	241 (100%)	49 (100%)	6 (100%)	108 (100%)	29 (100%)	38 (100%)	2,115 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

「生協」，「個人的な産直」そして「その他」は，購入単価が高い傾向にあり，一束 200 円以上のホウレンソウを買う人の割合は，「スーパー」の利用者が 23.6%であるのに対し，それぞれ 45.2%，46.3%，63.1%である。

第 74 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか」のクロス

		Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか									
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか	1	63.0%	52.8%	39.6%	38.6%	40.4%	66.7%	30.0%	40.0%	23.1%	1,186
	2	28.2%	42.3%	51.4%	56.5%	57.7%	0.0%	67.3%	56.7%	74.4%	802
	3	8.8%	4.9%	9.0%	4.9%	1.9%	33.3%	2.7%	3.3%	2.6%	162
	合計	1,430 (100%)	123 (100%)	111 (100%)	246 (100%)	52 (100%)	6 (100%)	110 (100%)	30 (100%)	39 (100%)	2,147 (100%)

注 1）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。
　 2）1＝価格や品質，安全性などの条件が満足できれば，買ってもよい，2＝価格や品質，安全性などの条件がどんなに良くても，絶対に買いたくない，3＝よくわからない。

「スーパー」の利用者では，遺伝子組換え野菜について，「条件が満たされれば買ってよい」という回答は 63.0%であり，「条件がどんなによくても買いたくない」という回答は 28.2%であった。他方，「生協」や「A コープ」，「個人的な産直」，「その他」の利用者では「条件がどんなによくても買いたくない」という回答が 55%以上であったのと対照的である。生協等のこれらの層では，有機野菜を買う頻度が高く，そのため遺伝子組換え野菜については，回避的傾向を示したと考えられる。

2)トレーサビリティや外国産品に対する考え方とのクロス集計結果

この調査時点では，トレーサビリティという言葉を認知している人はほぼ半数であったが，Aコープの利用者は比較的認知度が高かった。また，トレーサビリティの役割のうち，スーパーの利用者は追跡可能性をより重視し，生協や産直の利用者は顔の見える関係をより重視していた。さらに，生協や産直の利用者は，国産食材をより重視する傾向がある。

第 75 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q11「トレーサビリティ」という言葉を，聞いたことがありますか」のクロス

		Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか									
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
Q11「トレーサビリティ」という言葉を，聞いたことがありますか	聞いたことがあり，内容も知っている	28.2%	24.8%	30.9%	32.0%	40.4%	33.3%	32.1%	32.3%	52.6%	625
	聞いたことはあるが，内容までは知らない	20.5%	26.4%	29.1%	21.3%	25.0%	33.3%	25.7%	19.4%	23.7%	461
	初めて聞いた	51.3%	48.8%	40.0%	46.7%	34.6%	33.3%	42.2%	48.4%	23.7%	1,025
	合計	1,400 (100%)	121 (100%)	110 (100%)	244 (100%)	52 (100%)	6 (100%)	109 (100%)	31 (100%)	38 (100%)	2,111 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 5%水準で有意差が見られた。

「スーパー」の利用者は，トレーサビリティという言葉を 51.3%が「初めて聞いた」と答え，「内容まで知っている」の割合は 28.2%であった。他方，「A コープ」や「その他」の利用者は 40%以上が「内容まで知っている」と答えた。A コープは，農村地域に多いために，トレーサビリティの実施と関連の深い生産者が，より多く回答者として含まれていた可能性が考えられる。

第 76 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q12 トレーサビリティ A,B どちらの目的がより重要ですか」のクロス

Q12 トレーサビリティ A,B どちらの目的がより重要ですか	Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか										
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
	Aが特に重要	23.0%	23.6%	18.0%	12.6%	23.1%	16.7%	11.9%	12.9%	12.8%	444
	Aがより重要	24.6%	22.0%	13.5%	13.4%	15.4%	0%	9.2%	22.6%	12.8%	456
	同程度重要	28.6%	30.9%	27.9%	40.9%	26.9%	66.7%	30.3%	45.2%	33.3%	656
	Bがより重要	15.3%	16.3%	26.1%	19.8%	15.4%	16.7%	27.5%	9.7%	17.9%	365
	Bが特に重要	8.6%	7.3%	14.4%	13.4%	19.2%	0%	21.1%	9.7%	23.1%	226
	合計	1,429 (100%)	123 (100%)	111 (100%)	247 (100%)	52 (100%)	6 (100%)	109 (100%)	31 (100%)	39 (100%)	2,147 (100%)

注１）カイ２乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。
　２）Ａは追跡可能性，Ｂは顔の見える関係である。

「スーパー」や「八百屋」の利用者は，どちらかというとＡの「トレーサビリティにおける追跡可能性」を重視し，「Ａが特に重要」「Ａがより重要」を合わせた割合は45%を超える。他方，生協は「Ａの追跡可能性」と「Ｂの顔の見える関係」については「同程度」が一番多くて40.9%であり，「個人的な産直」はＢの方を重視する傾向が強くて「Ｂが特に重要」「Ｂがより重要」を合わせた割合は48.6%になる。「個人的な産直」は，顔の見える関係が前提となっているから，このような結果になったと考えられるが，そもそも「顔の見える関係」を好むから，産直や有機野菜の宅配を選んでいるのかもしれない。

第 77 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q19 どの程度であれば，外国産の食品を買ってもよいとお考えですか」のクロス

Q19 どの程度であれば，外国産の食品を買ってもよいとお考えですか	Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか										
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
	値段が高くても外国産のものを買いたい	2.5%	4.9%	3.6%	2.8%	2.0%	0%	6.4%	0%	0%	60
	同程度であれば外国産を買ってもよい	24.5%	21.3%	20.0%	19.5%	14.0%	33.3%	7.3%	33.3%	15.4%	475
	5%安ければよい	3.4%	1.6%	2.7%	2.8%	4.0%	0%	0.9%	3.3%	2.6%	65
	10%安ければよい	12.7%	8.2%	9.1%	9.3%	6.0%	0%	9.2%	6.7%	2.6%	239
	20%安ければよい	11.8%	8.2%	15.5%	8.9%	14.0%	16.7%	4.6%	10.0%	5.1%	234
	30%安ければよい	10.7%	19.7%	7.3%	7.3%	18.0%	0%	6.4%	13.3%	5.1%	224
	50%安ければよい	6.9%	6.6%	3.6%	6.1%	4.0%	0%	3.7%	10.0%	2.6%	135
	70%安ければよい	0.4%	0%	1.8%	0.4%	0%	0%	0%	0%	0%	9
	90%安ければよい	0.6%	0.8%	0%	0.4%	0%	0%	0.9%	0%	0%	12
	いくら安くても買いたくない	20.2%	25.4%	27.3%	36.2%	34.0%	0%	49.5%	16.7%	61.5%	535
	よくわからない	3.2%	2.5%	4.5%	1.6%	0%	16.7%	3.7%	0%	0%	62
	その他	3.0%	0.8%	4.5%	4.5%	4.0%	33.3%	7.3%	6.7%	5.1%	76
	合計	1,414 (100%)	122 (100%)	110 (100%)	246 (100%)	50 (100%)	6 (100%)	109 (100%)	30 (100%)	39 (100%)	2,126 (100%)

注）カイ２乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。

「スーパー」利用者は，国産品価格と比較して「同程度であれば外国産を買ってもよい」（24.5%），あるいは多少安ければ外国産でもかまわないと答え，「いくら安くても買いたくない」は20.2%に過ぎない。しかし，「生協」や「Aコープ」利用者は「いくら安くても買いたくない」が各36.2%，34.0%となり，特に「個人的な産直」や「その他」の利用者は49.5%，61.5%が「いくら安くても買いたくない」と答えるほど国産品を支持している。

3）食の安全・安心や環境保全等に対する意識とのクロス集計結果

Aコープや生協，個人的な産直の利用者は，スーパーの利用者よりも，環境の脆弱性を感じ，食品添加物について心配し，遺伝子組換え食品を好まない傾向が見られた。また，生協や個人的な産直の利用者は，他の層に比較して，遺伝子組換え技術の利用や監視について，科学者や政府を余り信頼していない傾向が見られた。

第78表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q24-1 地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものだ」のクロス

		Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか									
Q24-1 地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものだ		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
	1	66.9%	66.4%	69.1%	77.5%	80.0%	50.0%	81.7%	51.6%	89.7%	1,480
	2	25.2%	24.6%	22.7%	17.6%	14.0%	50.0%	11.0%	19.4%	10.3%	489
	3	5.1%	7.4%	5.5%	2.9%	4.0%	0%	4.6%	12.9%	0%	106
	4	2.3%	1.6%	0%	1.6%	2.0%	0%	2.8%	12.9%	0%	47
	5	0.4%	0%	2.7%	0.4%	0%	0%	0%	3.2%	0%	11
	合計	1,422 (100%)	122 (100%)	110 (100%)	244 (100%)	50 (100%)	6 (100%)	109 (100%)	31 (100%)	39 (100%)	2,133 (100%)

注1）カイ2乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。
2）1＝全くそう思う，2＝多少そう思う，3＝どちらとも言えない，4＝余りそう思わない，5＝全くそう思わない。

購入する店によって，環境意識もかなり異なっている。「スーパー」の利用者は，地球を限られた宇宙船のようだと見なすことについて「全くそう思う」が66.9%であるのに対し，「Aコープ」，「個人的な産直」，「その他」ではこの割合が80%を超える。他方，「手に入るので買う必要がない」（自分で栽培している人など。）の回答者は人数が少ないけれども，地球を限られた宇宙船のようだと見なすことについて「全くそう思う」が51.6%で相対的に低い。

また，「Q24-2自然のバランスは大変微妙で壊れやすい」とのクロス集計でも同様の結果となった。自分で栽培する人は環境をたくましく感じ，自分で栽培しない人のほうが環境問題を不安に思い深刻にとらえる傾向があるのかもしれない。

第 79 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q24-5 現在使用されている食品添加物で，自分の健康が害されることはないと思う」のクロス

Q24-5 現在使用されている食品添加物で，自分の健康が害されることはないと思う	Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか										
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
	1	2.2%	0.8%	2.7%	3.3%	0%	0%	0.9%	3.2%	5.1%	48
	2	8.6%	10.7%	9.0%	4.5%	5.8%	0%	5.5%	0%	5.1%	168
	3	22.9%	18.9%	21.6%	13.0%	15.4%	33.3%	6.4%	16.1%	10.3%	432
	4	37.1%	36.1%	24.3%	33.7%	26.9%	33.3%	27.3%	38.7%	17.9%	749
	5	29.1%	33.6%	42.3%	45.5%	51.9%	33.3%	60.0%	41.9%	61.5%	747
	合計	1,427 (100%)	122 (100%)	111 (100%)	246 (100%)	52 (100%)	6 (100%)	110 (100%)	31 (100%)	39 (100%)	2,144 (100%)

注１）カイ２乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。
　２）1＝全くそう思う，2＝多少そう思う，3＝どちらとも言えない，4＝余りそう思わない，５＝全くそう思わない。

食品添加物による健康への悪影響について，「全くそう思わない」の回答割合を見ると，「スーパー」では 29.1%なのに対して，「生協」では 45.5%，「A コープ」では 51.9%，「個人的な産直」では 60.0%の人が悪影響を心配している。食品添加物の悪影響について心配するから，産直や生協などで食品を購入するのであろう。

第 80 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q24-6 レストランなど飲食店は，食べ物を十分に気をつけて扱っていないと思う」のクロス

Q24-6 レストランなど飲食店は、食べ物を十分に気をつけて扱っていないと思う	Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか										
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
	1	16.4%	20.3%	18.9%	18.6%	30.8%	50.0%	37.6%	19.4%	33.3%	404
	2	43.0%	36.6%	49.5%	41.3%	32.7%	16.7%	30.3%	32.3%	23.1%	883
	3	29.6%	27.6%	20.7%	30.4%	23.1%	33.3%	26.6%	38.7%	25.6%	618
	4	9.4%	13.8%	7.2%	8.5%	9.6%	0%	3.7%	6.5%	12.8%	195
	5	1.7%	1.6%	3.6%	1.2%	3.8%	0%	1.8%	3.2%	5.1%	40
	合計	1,422 (100%)	123 (100%)	111 (100%)	247 (100%)	52 (100%)	6 (100%)	109 (100%)	31 (100%)	39 (100%)	2,140 (100%)

注１）カイ２乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。
　２）1＝全くそう思う，2＝多少そう思う，3＝どちらとも言えない，4＝余りそう思わない，５＝全くそう思わない。

「A コープ」利用者は 30.8%が「全くそう思う」を選び，「個人的な産直」利用者は 37.6%が「全くそう思う」を選んだことから，不信感がかなり強い。一方，「スーパー」利用者は「全くそう思う」が 16.4%であり，他の店の利用者よりも，不信感は強くない。「生協」利用者はスーパー利用者に傾向がよく似ている。

野菜が「手に入る」人は，レストラン等飲食店への不信感が少なく，「どちらとも言えない」を選ぶ人が多い。

第 81 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q24-11 大多数の人が遺伝子組換え食品を好むならば，それは許可されるべきである」のクロス

		Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか									
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
Q24-11 大多数の人が遺伝子組換え食品を好むならば，それは許可されるべきである	1	6.3%	4.9%	2.7%	2.4%	1.9%	33.3%	0.9%	3.4%	0%	110
	2	17.3%	13.9%	6.3%	6.9%	15.4%	16.7%	3.6%	6.9%	10.3%	306
	3	24.6%	22.1%	17.1%	15.0%	7.7%	33.3%	15.5%	17.2%	2.6%	462
	4	26.0%	23.8%	30.6%	25.5%	11.5%	16.7%	17.3%	27.6%	17.9%	537
	5	25.9%	35.2%	43.2%	50.2%	63.5%	0%	62.7%	44.8%	69.2%	726
	合計	1,425 (100%)	122 (100%)	111 (100%)	247 (100%)	52 (100%)	6 (100%)	110 (100%)	29 (100%)	39 (100%)	2,141 (100%)

注１）カイ２乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。
　２）1＝全くそう思う，2＝多少そう思う，3＝どちらとも言えない，4＝余りそう思わない，５＝全くそう思わない。

大多数の人が遺伝子組換え食品を好むならば，それは許可されるべきであるについて，「全くそう思わない」の割合を見ると，「スーパー」利用者では25.9%であるのに対し，「生協」では50.2%，「個人的な産直」では62.7%，「Aコープ」では63.5%と，遺伝子組換え食品の許可に対して否定的割合がかなり高い。

第 82 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している」のクロス

		Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか									
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
Q24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している	1	2.5%	2.5%	2.7%	4.1%	2.0%	0%	2.7%	3.2%	2.6%	57
	2	10.8%	9.8%	4.5%	6.9%	5.9%	0%	4.5%	0%	7.7%	198
	3	23.9%	27.0%	18.0%	20.8%	19.6%	50.0%	12.7%	35.5%	10.3%	486
	4	38.4%	42.6%	38.7%	42.4%	39.2%	33.3%	37.3%	32.3%	38.5%	833
	5	24.4%	18.0%	36.0%	25.7%	33.3%	16.7%	42.7%	29.0%	41.0%	562
	合計	1,421 (100%)	122 (100%)	111 (100%)	245 (100%)	51 (100%)	6 (100%)	110 (100%)	31 (100%)	39 (100%)	2,136 (100%)

注１）カイ２乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。
　２）1＝全くそう思う，2＝多少そう思う，3＝どちらとも言えない，4＝余りそう思わない，５＝全くそう思わない。

政府等は遺伝子組換え技術について注意深く監視しているについて，「全くそう思わない」の割合を見ると，「スーパー」利用者では24.4%であるのに対し，「生協」では25.7%と大きな違いはないが，「Aコープ」では33.3%，「個人的な産直」では42.7%，「その他」では41.0%と政府に対する不信感が高まっている。

なお，同様に，科学者や生産者への信頼に関する設問ともクロスしたところ，類似した

結果となった。

第83表　「Q3生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q24-23人間が自然に干渉するとき，しばしば悲惨な結果がもたらされる」のクロス

		Q3生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか									
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
Q24-23 人間が自然に干渉するとき，しばしば悲惨な結果がもたらされる	1	47.5%	50.8%	52.7%	64.1%	70.0%	50.0%	74.3%	38.7%	64.1%	1,107
	2	37.6%	37.5%	36.4%	25.3%	18.0%	33.3%	19.3%	29.0%	30.8%	734
	3	11.7%	7.5%	8.2%	8.2%	10.0%	16.7%	6.4%	22.6%	0%	224
	4	2.4%	2.5%	1.8%	1.2%	2.0%	0%	0%	6.5%	5.1%	47
	5	0.9%	1.7%	0.9%	1.2%	0%	0%	0%	3.2%	0%	20
	合計	1,422 (100%)	120 (100%)	110 (100%)	245 (100%)	50 (100%)	6 (100%)	109 (100%)	31 (100%)	39 (100%)	2,132 (100%)

注1）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば1%水準で相関が認められた。
2）1＝全くそう思う，2＝多少そう思う，3＝どちらとも言えない，4＝余りそう思わない，5＝全くそう思わない。

人間が自然に干渉すると，しばしば悲惨な結果がもたらされるについて，「全くそう思う」の割合を見ると，「スーパー」利用者では47.5%であるのに対し，「生協」では64.1%，「Aコープ」では70.0%，「個人的な産直」では74.3%と最も高い割合となった。他方，「手に入るので買う必要がない」層では，同割合が38.7%と最も低いことから，実際に自分で畑を耕した実感として，自然は意外に強くたくましいと思ったのであろう。

「個人的な産直」利用者は，自分自身で畑を手入れする機会は，特に多いとは思われないので，メディアから得られた知識に基づいて自然環境の脆さを感じ，不安感を抱いているのであろう。

4)居住地や食品購買行動とのクロス集計結果

スーパーの利用者は居住地域を問わず60%以上を占めるが，大都市部では生協の利用者が比較的多く，農村部ではAコープの利用者が多くなる。また，表示ラベルをよく見るのは，産直やAコープの利用者であった。

第 84 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q29 居住地域」のクロス

		Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか									
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
Q29 居住地域	大都市部	64.3%	7.9%	6.5%	12.5%	0.8%	0%	5.2%	0.2%	2.5%	479(100%)
	都市部	68.1%	6.0%	3.9%	11.8%	2.1%	0.2%	5.4%	1.0%	1.6%	1,213 (100%)
	郡部	65.0%	2.6%	5.2%	11.1%	5.2%	1.0%	4.2%	3.6%	2.0%	306(100%)
	農山漁村部	62.9%	1.0%	12.4%	4.8%	6.7%	0.0%	4.8%	5.7%	1.9%	105(100%)
	無回答	75.0%	0%	12.5%	6.3%	0%	0%	3.1%	3.1%	0%	32(100%)
	合計	1,423	120	111	244	52	6	109	31	39	2,135(100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

「スーパー」利用者は居住地域に拘わらず 65%前後の割合で利用されているが，それ以外では地域によって，利用する店の傾向が少しずつ異なる。例えば，大都市では「生協」を 12.5%が利用しており，「スーパー」に次ぐ割合であったが，農山漁村部では 4.8%とあまり生協利用者がいない。他方，「A コープ」は都市部で 0.8%しか利用者がいないが，農山漁村部では 6.7%と増加する。また，農山漁村部では，「地元の店」を利用する割合は 12.4%と，「スーパー」に次いで高くなっている。

第 85 表　「Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか」と「Q30-6 栄養や原材料の情報を得るために，食品のラベル表示を見ること」のクロス

		Q3 生鮮野菜を買うとき，主にどのようなお店から買いますか									
		スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	手に入るので買う必要がない	その他	合計
Q30-6 栄養や原材料の情報を得るために，食品のラベル表示を見ること	1	35.4%	38.8%	52.8%	50.6%	53.8%	16.7%	65.5%	35.5%	74.4%	869
	2	35.4%	38.0%	34.3%	35.4%	28.8%	33.3%	23.6%	25.8%	12.8%	726
	3	23.3%	19.8%	11.1%	10.7%	17.3%	50.0%	9.1%	32.3%	7.7%	427
	4	4.6%	2.5%	0.9%	3.3%	0%	0%	1.8%	0%	2.6%	80
	5	1.2%	0.8%	0.9%	0%	0%	0%	0%	6.5%	2.6%	22
	合計	1,414 (100%)	121 (100%)	108 (100%)	243 (100%)	52 (100%)	6 (100%)	110 (100%)	31 (100%)	39 (100%)	2,124 (100%)

注 1）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。
　 2）1＝いつもする，2＝しばしばする，3＝ときどきする，4＝ほとんどしない，5＝しない

栄養等の情報を得るために食品のラベルを見ることについて，「いつもする」の割合を見ると，「スーパー」利用者では 35.4%であまり見ていないのに対し，「その他」が最も高くて 74.4%，次いで「個人的な産直」が 65.5%，「A コープ」が 53.8%，「地元の店」が 52.8%，そして「生協」が 50.6%となった。なお，「その他」層では 74.4%もがラベルをいつもチェックしていることから，栄養や原材料の確認が必要不可欠な体質（アレルギー体質など）の人が，「その他」の店を利用していることが考えられる。

5. 価格・味・栄養・安全性・鮮度のうち重視する属性とのクロス集計結果

1)遺伝子組換え野菜や外国産品に対する考え方とのクロス集計結果

以下では，「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1 番目）」とのクロス集計結果について，特徴的な結果を中心に見ていく。価格や栄養を重視する人は，条件次第で遺伝子組換え食品や外国産食材を買ってもよいと考える人の割合が高く，安全性を重視する人は遺伝子組換え食品や外国産食材を買いたがらない傾向が見られた。

第 86 表 「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1 番目)」と「Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか」とのクロス

		Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1 番目)					
		味	価格	栄養	安全性	鮮度	合計
Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか	価格や品質，安全性などの条件が満足できれば，買ってもよい	47.6%	72.4%	73.0%	38.5%	63.3%	1,183
	価格や品質，安全性などの条件がどんなに良くても，絶対に買いたくない	42.8%	18.1%	26.9%	56.5%	27.4%	797
	よくわからない	9.5%	9.4%	0%	4.8%	9.1%	162
	合計	63 (100%)	287 (100%)	26 (100%)	776 (100%)	990 (100%)	2,142 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

生鮮野菜を買うとき「価格」と「栄養」を重視する人は，条件が満足できれば遺伝子組換え野菜を買ってもよいと答えた割合が 70%以上であり，「鮮度」を重視する人は，同割合が 63.3%と高かった。他方，「安全性」を気にする人は，どんなに条件がよくても買いたくないと答えた人が 56.5%おり，この層では遺伝子組換え食品に対して不安を抱いていることがわかる。

第87表　「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1番目）」と「Q19どの程度であれば，外国産の食品を買ってもよいとお考えですか」とのクロス

		Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1番目）					
		味	価格	栄養	安全性	鮮度	合計
Q19 どの程度であれば，外国産の食品を買ってもよいとお考えですか	値段が高くても外国産のものを買いたい	1.5%	2.7%	0%	3.1%	2.6%	59
	同程度であれば外国産を買ってもよい	20.3%	27.2%	36.0%	17.5%	24.4%	474
	5%安ければよい	6.2%	5.5%	0%	2.0%	2.8%	64
	10%安ければよい	9.3%	15.3%	32.0%	9.8%	10.7%	238
	20%安ければよい	21.8%	11.1%	8.0%	7.9%	12.6%	233
	30%安ければよい	6.2%	10.4%	4.0%	8.2%	12.8%	224
	50%安ければよい	9.3%	9.4%	0%	4.4%	7.0%	136
	70%安ければよい	0%	1.3%	0%	0.2%	0.3%	9
	90%安ければよい	0%	0.3%	0%	0.7%	0.5%	12
	いくら安くても買いたくない	18.7%	11.1%	16.0%	37.9%	20.0%	535
	よくわからない	1.5%	3.1%	0%	3.2%	2.7%	62
	その他	4.6%	1.7%	4.0%	4.5%	3.1%	75
	合計	64 (100%)	286 (100%)	25 (100%)	765 (100%)	981 (100%)	2,121 (100%)

注）カイ2乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。

国産農産物と比較して「同程度の価格なら外国産を買っても良い」という回答は，「栄養」を重視する層で目立ち36.0%である。「価格」や「鮮度」，「味」を重視する層では，「栄養」を重視する人よりも，外国産が国産品よりも安ければ買ってもよいという傾向を持ち，特に「価格」を重視する人は外国産を「いくら安くても買いたくない」という回答が最も少なく11.1%であった。他方，安全性を重視する層は，「いくら安くても買いたくない」を37.9%が回答し，国産品を選ぶ傾向が最も高い。輸入野菜から立て続けに農薬が検出された事件などから，輸入野菜は危険というイメージが浸透していると見られる。

2）食の安全・安心や環境保全等に対する意識とのクロス集計結果

食の安全性を重視する人は，自然の脆弱性をより強く感じ，食品添加物をより不安に思い，遺伝子組換え食品や政府の監視について否定的である。また，価格を重視する人は，食の安全性や環境問題について，あまり気にかけない傾向が見られる。

第 88 表　「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1 番目)」と「Q24-1 地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものだ」のクロス

		Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1 番目)					
		味	価格	栄養	安全性	鮮度	合計
Q24-1 地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものだ	全くそう思う	60.9%	60.0%	53.8%	79.2%	65.4%	1,478
	多少そう思う	31.2%	26.5%	38.4%	15.5%	26.6%	487
	どちらとも言えない	7.8%	8.4%	7.6%	3.1%	5.1%	106
	余りそう思わない	0%	3.5%	0%	1.6%	2.2%	45
	全くそう思わない	0%	1.4%	0%	0.3%	0.5%	12
	合計	64 (100%)	283 (100%)	26 (100%)	772 (100%)	983 (100%)	2,128 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

地球は限られた資源をもつ宇宙船のようなものだという考え方について，「全くそう思う」の割合が最も高かったのは，「安全性」を重視する層で 79.2%となり，環境危機に関する設問に敏感に反応し，不安感を抱いていることが分かる。他方，同割合が最も低かったのは，「価格」ではなく「栄養」を重視する層で 53.8%であり，「栄養」を重視する層は，相対的に地球資源の有限性を悲観的にとらえていない傾向が見受けられる。他の類似した環境問題の設問とのクロスでも，同様の結果が出た。

第 89 表　「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1 番目)」と「Q24-5 現在使用されている食品添加物で，自分の健康が害されることはないと思う」のクロス

		Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1 番目)					
		味	価格	栄養	安全性	鮮度	合計
Q24-5 現在使用されている食品添加物で，自分の健康が害されることはないと思う	全くそう思う	3.1%	1.4%	11.5%	2.3%	2.1%	48
	多少そう思う	9.3%	7.7%	15.3%	5.4%	9.6%	169
	どちらとも言えない	25.0%	27.0%	15.3%	12.0%	24.3%	431
	余りそう思わない	31.2%	38.2%	38.4%	32.0%	36.4%	747
	全くそう思わない	31.2%	25.6%	19.2%	48.2%	27.5%	744
	合計	64 (100%)	285 (100%)	26 (100%)	755 (100%)	989 (100%)	2,139 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

現在使用されている食品添加物で，自分の健康が害されることはないと思うについて，「全くそう思わない」の割合が最も高かったのは，「安全性」を重視する層で 48.2%となり，食の安全性に不安感を抱いていることが分かる。他方，同割合が最も低かったのは，「栄養」を重視する層で 19.2%，次いで「価格」の 25.6%であった。「栄養」を気にする人は，添加物について比較的おおらかである。

第 90 表　「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1 番目）」と「Q24-8 遺伝子組換え技術を食料生産に使用するならば，世界の食料問題の解決に役立つ」のクロス

		Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1 番目）					
		味	価格	栄養	安全性	鮮度	合計
Q24-8 遺伝子組換え技術を食料生産に使用するならば，世界の食料問題の解決に役立つ	全くそう思う	7.8%	8.3%	3.8%	4.8%	8.1%	146
	多少そう思う	26.5%	31.8%	42.3%	17.1%	26.8%	512
	どちらとも言えない	25.0%	31.1%	11.5%	21.2%	32.2%	584
	余りそう思わない	21.8%	19.5%	26.9%	21.2%	19.9%	433
	全くそう思わない	18.7%	9.0%	15.3%	35.5%	12.8%	438
	合計	64 (100%)	286 (100%)	26 (100%)	763 (100%)	974 (100%)	2,113 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 5%水準で有意差が見られた。

遺伝子組換え技術は食料問題の解決に役立つについて，「全くそう思わない」の割合が最も高かったのは，「安全性」を重視する層で 35.5%であり，他の層は 20%以下であるから，かなり高いと言えよう。他方，「価格」を重視する層では，同割合が最も低くて 9.0%である。「安全性」を気にする人は，遺伝子組換え技術の効果も低く評価していることがわかる。

第 91 表　「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1 番目）」と「Q24-11 大多数の人が遺伝子組換え食品を好むならば，それは許可されるべきである」のクロス

		Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1 番目）					
		味	価格	栄養	安全性	鮮度	合計
Q24-11 大多数の人が遺伝子組換え食品を好むならば，それは許可されるべきである	全くそう思う	7.8%	9.0%	11.5%	3.3%	5.0%	110
	多少そう思う	15.6%	22.2%	19.2%	7.3%	17.0%	304
	どちらとも言えない	18.7%	28.2%	11.5%	14.5%	25.6%	461
	余りそう思わない	29.6%	23.3%	42.3%	23.1%	26.5%	538
	全くそう思わない	28.1%	17.0%	15.3%	51.5%	25.6%	723
	合計	64 (100%)	287 (100%)	26 (100%)	776 (100%)	983 (100%)	2,136 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 5%水準で有意差が見られた。

「安全性」を気にする人は，遺伝子組換え食品を強く否定するために，「大多数の人が遺伝子組換え食品を好むならば，それは許可されるべきである」について，「全くそう思わない」を 51.5%が選ぶ。しかし「価格」と「栄養」を気にする人の同割合は，それぞれ 17.0%，15.3%にしか過ぎない。

第 92 表　「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1 番目)」と「Q24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している」のクロス

		Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1 番目)					
		味	価格	栄養	安全性	鮮度	合計
Q24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している	全くそう思う	0%	2.1%	0%	3.8%	2.1%	57
	多少そう思う	9.3%	9.5%	26.9%	8.0%	9.8%	199
	どちらとも言えない	26.5%	20.0%	38.4%	17.3%	27.0%	484
	余りそう思わない	39.0%	45.0%	19.2%	37.1%	39.0%	830
	全くそう思わない	25.0%	23.2%	15.3%	33.5%	21.9%	561
	合計	64 (100%)	284 (100%)	26 (100%)	772 (100%)	985 (100%)	2,131 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 5%水準で有意差が見られた。

「安全性」を気にする人は，政府は遺伝子組換え技術の利用について注意深く監視しているについて，「全くそう思わない」を選ぶ割合が 33.5%と他の層よりも高く，政府に不信感を抱く傾向が強い。この傾向については，Q24-20 での科学者，Q24-21 での生産者に対する信頼とのクロスにおいても，同様に信頼していない結果となった。

3)個人属性やファーストフード購入とのクロス集計結果

「味」や「価格」を重視する層ではファーストフードの利用頻度が高い。所得の増加とともに，生鮮野菜の鮮度をより重視する傾向が見られた。

第 93 表　「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1 番目)」と「Q26 年齢」のクロス

		Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1 番目)					
		味	価格	栄養	安全性	鮮度	合計
Q26 年齢	18才-24才	6.1%	32.3%	0%	27.6%	33.8%	65 (100%)
	25才-34才	4.7%	18.0%	2.0%	32.2%	42.8%	338 (100%)
	35才-44才	2.7%	15.1%	1.2%	32.9%	47.9%	620 (100%)
	45才-54才	2.4%	11.5%	0.4%	39.0%	46.5%	617 (100%)
	55才-64才	1.5%	7.6%	1.2%	39.8%	49.6%	314 (100%)
	65才-74才	2.6%	8.5%	1.9%	42.1%	44.7%	152 (100%)
	75才-84才	13.3%	0%	6.6%	40.0%	40.0%	15 (100%)
	無回答	7.1%	14.2%	0%	21.4%	57.1%	14 (100%)
	合計	64	286	26	770	989	2,135 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

18-24 才層は「価格」や「鮮度」を重視し，その割合はそれぞれ 30%以上であった。それより，上の世代になると，「安全性」や「鮮度」に関心が高まる傾向がある。「価格」への関心は年代が上がるに従って減っているが，このことは年齢とともに所得が上昇したり，食べる量が減ったりすることとも関係しているだろう。

第 94 表　「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1 番目）」と「Q30-4 ファーストフードや調理済み食品を買って食べること」のクロス

		Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1 番目）					
		味	価格	栄養	安全性	鮮度	合計
Q30-4 ファーストフードや調理済み食品を買って食べること	いつもする	3.1%	4.8%	15.3%	1.6%	3.1%	64
	しばしばする	40.6%	31.0%	7.6%	13.7%	25.0%	670
	ときどきする	39.0%	52.2%	50.0%	43.3%	46.9%	984
	ほとんどしない	15.6%	9.0%	23.0%	32.2%	21.8%	505
	しない	1.5%	2.7%	3.8%	8.9%	3.0%	109
	合計	64 (100%)	287 (100%)	26 (100%)	770 (100%)	985 (100%)	2,132 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

「味」を重視する層では，ファーストフードや調理済み食品の利用について，「いつもする」と「しばしばする」の合計が 43.7%と最も高く，利用頻度の多さがわかる。いわゆる「デパ地下グルメ」や，名店の味を自宅で味わえると銘打ったような調理済み食品を利用しているのかもしれない。「価格」を気にする層も利用頻度が高いく，同割合は 35.8%である。スーパーや弁当店の総菜は，時に手作りより安くつくからであろう。一方，「安全性」を気にする層は，同割合が 15.3%と最も低く，あまり買わないことが読み取れる。

第 95 表　「Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1 番目）」と「Q33 年収」のクロス

		Q4-1 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること（1 番目）					
		味	価格	栄養	安全性	鮮度	合計
Q33 年収	200万円未満	1.3%	36.9%	1.3%	19.1%	41.0%	73 (100%)
	200－399万円	4.1%	15.7%	2.8%	35.6%	41.6%	317 (100%)
	400－599万円	2.2%	12.7%	1.2%	35.4%	48.2%	479 (100%)
	600－799万円	2.6%	10.8%	1.2%	33.4%	51.8%	413 (100%)
	800－999万円	1.5%	14.3%	0.3%	40.2%	43.4%	251 (100%)
	1000－1199万円	3.3%	13.5%	1.1%	32.7%	49.1%	177 (100%)
	1200－1399万円	7.8%	7.8%	0%	40.6%	43.7%	64 (100%)
	1400－1599万円	8.3%	11.1%	0%	25.0%	55.5%	36 (100%)
	1600万円以上	2.6%	2.6%	2.6%	39.4%	52.6%	38 (100%)
	無回答	3.3%	11.6%	0.3%	44.5%	40.0%	267 (100%)
	合計	64	284	26	763	978	2,115 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

「200 万円未満」層では，生鮮野菜を買うときに「鮮度」を気にすると答えた割合は 41.0%であり，「価格」については 36.9%であった。この鮮度を気にする割合は，所得の増加とともに，多少とも増える傾向があり，「価格」を気にする割合は，所得増加とともに低くなる傾向が見られる。「安全性」については，「200 万円未満」という低所得層では関心が低く，安全性に一番敏感なのは年収無回答の層であった。プライベートな項目は記入したくないという性格の人が，安全性を気にしているとも考えられる。

なお，「学歴」，「性別」，「居住地域」と「年収」との関係について，カイ 2 乗検定

によれば10%水準でも有意な差はなかった。

6. 生鮮野菜の見た目への関心や表示への信頼とのクロス集計結果

1)生鮮野菜の見た目を気にする程度とのクロス集計結果

見た目を気にする人は，生鮮野菜について安全性よりも鮮度を重視する傾向が強い。見た目を重視しない人の方が，より値段の高い有機野菜などを購入し，遺伝子組換え食品を回避する傾向が強く，政府よりも消費者団体を信頼し，環境の脆弱性をより心配している。

第 96 表　「Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか」と「Q4 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1番目)」のクロス

		Q4 生鮮野菜を買うとき，気をつけていること(1番目)					
		味	価格	栄養	安全	鮮度	合計
Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか	かなり気にする	4.8%	11.7%	0.5%	23.9%	59.0%	188 (100%)
	多少気にする	3.3%	17.0%	1.1%	24.4%	54.1%	610 (100%)
	気にする	2.4%	15.2%	0.0%	31.7%	50.6%	328 (100%)
	あまり気にしない	2.2%	11.5%	1.7%	44.0%	40.5%	763 (100%)
	気にしない	3.6%	9.1%	2.0%	56.1%	29.2%	253 (100%)
	合計	63	287	26	776	990	2,142 (100%)

注）カイ2乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。

生鮮野菜を買うときに，見た目を「かなり気にする」人は「鮮度」重視の人で，その割合は，59.0%であった。他方，見た目を「気にしない」人は，「安全性」重視の人で，その割合は56.1%であった。

生鮮野菜の鮮度は見た目で判断することが多いから，鮮度重視の人は見た目も重視するのであろう。一方，生鮮野菜の安全性を重視する人が特に気にするのは「農薬使用の有無」であろうが，これは見た目では判断できない上に，有機野菜や減農薬野菜は，外観がよいとは言えないものも多い。したがって，安全性を重視すれば「見た目を気にしない」を選択することになるのであろう。

第 97 表　「Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか」と「Q6 減農薬野菜や有機栽培野菜を，よく買いますか」のクロス

		Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか					
		かなり気にする	多少気にする	気にする	あまり気にしない	気にしない	合計
Q6 減農薬野菜や有機栽培野菜を，よく買いますか	いつも買っている	9.5%	13.5%	7.3%	41.7%	27.8%	273 (100%)
	よく買う	10.5%	24.7%	15.3%	37.2%	12.2%	647 (100%)
	ときどき買う	6.5%	35.0%	16.0%	34.2%	8.1%	824 (100%)
	あまり買わない	8.5%	34.3%	19.5%	31.9%	5.6%	338 (100%)
	全く買わない	17.5%	21.0%	15.7%	26.3%	19.2%	57 (100%)
	合計	187	614	326	760	252	2,139 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば1%水準で相関が認められた。

有機野菜を日常的に買う人ほど，生鮮野菜を買うときに見た目を気にしない傾向がある。つまり，有機野菜を「いつも買っている」層では，69.5%が「あまり気にしない」あるいは「気にしない」と答えた。有機野菜を「あまり買わない」層では，同割合が37.5%である。有機野菜を買う人は見た目を気にしないことがわかる。

先の第96表によると，見た目を気にしない人は安全性重視だった。有機野菜の見た目はあまりよくないため，農薬などに不安を持ち，有機野菜を購入する人は，「見た目を気にしない」と答えていると思われる。

第98表　「Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか」と「Q9 ホウレン草を買うとき，一束どのくらいの値段ものを買っていますか」のクロス

		Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか					
		かなり気にする	多少気にする	気にする	あまり気にしない	気にしない	合計
Q9 ホウレン草を買うとき，一束どのくらいの値段のものを買っていますか	50円	1.0%	0.6%	0.9%	0.7%	0.4%	16
	80円	6.4%	3.8%	4.9%	4.1%	4.8%	94
	100円	34.2%	31.9%	32.5%	30.5%	25.6%	655
	150円	27.8%	39.2%	35.2%	32.6%	28.0%	718
	200円	22.4%	19.2%	21.3%	20.7%	26.0%	447
	250円	2.6%	2.8%	1.5%	5.3%	7.3%	85
	300円	3.2%	0.3%	0.9%	2.5%	3.6%	39
	350円	0.5%	0.3%	0%	0.9%	1.2%	13
	400円以上	0.5%	0%	0%	0%	0.8%	3
	その他	1.0%	1.6%	2.4%	2.3%	2.0%	43
	合計	187 (100%)	604 (100%)	323 (100%)	753 (100%)	246 (100%)	2,113 (100%)

注）カイ2乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。

見た目を「多少気にする」「かなり気にする」「気にしない」について，一束200円以上のホウレン草を買う人の割合は，それぞれ，22.6%，29.2%，38.9%であった。「見た目を気にしない」人のホウレン草はやや高い傾向を示すが，有機野菜など値段の高い野菜を買うからと見られる。

第99表　「Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか」と「Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか」のクロス

		Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか					
		かなり気にする	多少気にする	気にする	あまり気にしない	気にしない	合計
Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか	価格や品質，安全性などの条件が満足できれば，買ってもよい	63.4%	66.9%	52.2%	50.1%	39.1%	1,183
	価格や品質，安全性などの条件がどんなに良くても，絶対に買いたくない	26.8%	24.5%	40.1%	42.6%	56.1%	800
	よくわからない	9.6%	8.4%	7.5%	7.2%	4.7%	162
	合計	186 (100%)	615 (100%)	329 (100%)	762 (100%)	253 (100%)	2,145 (100%)

注）カイ2乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。

「見た目を気にしない」層以外は，「条件が満足できれば買ってもよい」が過半数を超えており，「多少気にする」層が最も購入意欲が高くて，同割合は66.9%である。他方，「見た目を気にしない」層は「絶対に買いたくない」という回答が最も多くて56.1%を占めている。このことは，第97表で示したように，有機野菜の購入頻度が，「見た目を気にしない」層において最も高かったのと整合的である。

第100表　「Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか」と「Q13 トレーサビリティが導入された場合，どのような団体や機関が監視すべきだとお考えですか」のクロス

		Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか					
		かなり気にする	多少気にする	気にする	あまり気にしない	気にしない	合計
Q13 トレーサビリティが導入された場合，どのような団体や機関が監視すべきだとお考えですか	消費者による任意団体	36.7%	39.6%	40.9%	47.8%	60.8%	961
	生産者による任意団体	11.1%	6.0%	5.1%	5.6%	4.8%	130
	政府の認証を受けた第3者機関	29.7%	32.3%	30.5%	26.2%	21.6%	607
	県や国などの行政機関	13.8%	12.8%	14.0%	12.7%	8.4%	269
	よくわからない	4.7%	5.0%	4.5%	3.1%	0.8%	81
	その他	3.7%	4.0%	4.5%	4.3%	3.6%	89
	合計	188 (100%)	613 (100%)	327 (100%)	759 (100%)	250 (100%)	2,137 (100%)

注）カイ2乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。

「見た目を気にしない」層は，トレーサビリティの監視団体として消費者団体を挙げる割合が60.8%も最も高く，「行政機関」への信頼は8.4%と最も低い。

第101表「Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか」と「Q24-1 地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものだ」のクロス

		Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか					
		かなり気にする	多少気にする	気にする	あまり気にしない	気にしない	合計
Q24-1 地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものだ	全くそう思う	63.4%	64.5%	64.8%	72.5%	82.0%	1,478
	多少そう思う	23.6%	26.9%	26.6%	21.5%	12.0%	488
	どちらとも言えない	8.0%	5.4%	4.8%	4.3%	3.6%	106
	余りそう思わない	4.3%	2.9%	2.1%	1.4%	0.8%	46
	全くそう思わない	0.5%	0.1%	1.5%	0.1%	1.6%	12
	合計	186 (100%)	609 (100%)	327 (100%)	758 (100%)	250 (100%)	2,130 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば1%水準で相関が認められた。

地球は限られた資源をもつ宇宙船のようなものと考える人ほど，見た目を気にしない傾向がある。すなわち，地球は限られた資源をもつ宇宙船のようなものだという考え方について，「全くそう思う」の割合が最も高かったのは，見た目を「気にしない」層で82.0%である。他方，同割合が最も低かったのは，「かなり気にする」層で63.4%であった。見た目を気にしない人ほど，環境問題に敏感に反応する傾向が読み取れる。

第 102 表　「Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか」と「Q26 年齢」のクロス

		Q5 生鮮野菜を買うとき，見た目を気にしますか					
		かなり気にする	多少気にする	気にする	あまり気にしない	気にしない	合計
Q26 年齢	18才-24才	9.2%	43.0%	15.3%	24.6%	7.6%	65 (100%)
	25才-34才	10.3%	33.6%	10.9%	32.7%	12.3%	339 (100%)
	35才-44才	8.7%	28.5%	15.0%	35.6%	12.0%	620 (100%)
	45才-54才	6.7%	26.2%	16.8%	37.3%	12.7%	618 (100%)
	55才-64才	9.2%	23.0%	15.9%	38.3%	13.4%	313 (100%)
	65才-74才	11.1%	30.0%	20.2%	33.9%	4.5%	153 (100%)
	75才-84才	26.6%	40.0%	6.6%	20.0%	6.6%	15 (100%)
	無回答	7.1%	50.0%	21.4%	14.2%	7.1%	14 (100%)
	合計	188	612	329	756	252	2,137 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

見た目を「多少気にする」のは若年者（18～34 才）と年配（65 才以上）であり，中年世代は見た目を気にしない傾向がある。 男女差と見た目を気にする程度については，10%水準で有意差はなかった。

2)生産地や有機表示への信頼程度とのクロス集計結果

以下では，「Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか」とのクロス集計結果を示す。有機野菜の購入頻度の高い人は，生産地表示を信頼する程度が高い。また，政府の遺伝子組換え技術に対する監視や飲食店での食べ物の取り扱いについて信頼する人ほど，生産地表示をも信頼するという相関関係が見られた。

第 103 表　「Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか」と「Q6 減農薬野菜や有機栽培野菜を，よく買いますか」のクロス

		Q6 減農薬野菜や有機栽培野菜を，よく買いますか					
		いつも買っている	しばしば買う	ときどき買う	あまり買わない	まず買わない	合計
Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか	十分信頼している	14.5%	2.3%	1.3%	1.4%	5.2%	74
	おおむね信頼している	47.8%	43.0%	26.4%	16.3%	8.7%	686
	信頼している	22.9%	30.9%	28.7%	22.2%	21.0%	586
	あまり信頼していない	13.1%	22.2%	39.0%	48.3%	22.8%	677
	ほとんど信頼していない	1.4%	1.3%	4.3%	11.5%	42.1%	112
	合計	274 (100%)	646 (100%)	821 (100%)	337 (100%)	57 (100%)	2,135 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

有機野菜を「いつも買っている」人は，生産地や有機の表示を「十分信頼している」か「おおむね信頼している」と 62.3%が答え，有機野菜を「まず買わない」人は，同割合が 13.9%であった。他方，「いつも買っている」人は，その表示を「ほとんど信頼していない」の割合は 1.4%に過ぎず，「まず買わない」人は同割合が 42.1%であった。つまり，

有機野菜を日常的に購入している人はその表示も信頼しており，購入しない人はその表示も信頼していない明白な傾向が見られる。

第 104 表　「Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか」と「Q24-14 食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる」のクロス

		Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか					
		十分信頼している	おおむね信頼している	信頼している	あまり信頼していない	ほとんど信頼していない	合計
Q24-14 食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる	全くそう思う	4.1%	0.5%	1.0%	0.4%	0.9%	17
	多少そう思う	31.5%	27.1%	17.9%	7.6%	2.7%	367
	どちらとも言えない	32.8%	39.6%	43.7%	23.8%	6.3%	716
	余りそう思わない	17.8%	27.1%	32.5%	49.4%	36.0%	760
	全くそう思わない	13.6%	5.4%	4.8%	18.6%	54.0%	260
	合計	73 (100%)	684 (100%)	58 (100%)	671 (100%)	111 (100%)	2,120 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

総じて，生産地や有機等の表示を信頼していない人は，食品ラベルも信頼していないという傾向が読み取れる。つまり，「食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる」について「全くそう思わない」「余りそう思わない」を合わせた割合は，有機表示について「十分に信頼している」層では，31.4%であるのに対し，有機表示を「ほとんど信頼していない」層では同割合が 90.0%にまで達する。

なお，有機表示を十分に信頼する人でも，ラベルを信頼するとは限らないことは，生産地等の表示を「十分信頼している」人の中で，食品ラベルの表示は信頼できるについて「全くそう思わない」という回答が 13.6%存在したことからも窺われる。他方，表示ラベルを信頼する人は，有機表示も信頼する傾向が強く，食品ラベルの表示は信頼できるについて「多少そう思う」と答えた人の中で，生産地等の表示を「ほとんど信頼していない」人の割合は，17.3%の中の 0.1%見られることからも窺われる（第 105 表参照）。

第 105 表　「Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか」と「Q24-14 食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる」のクロス

		Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか					
		十分信頼している	おおむね信頼している	信頼している	あまり信頼していない	ほとんど信頼していない	合計
Q24-14 食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる	全くそう思う	0.1%	0.2%	0.3%	0.1%	0.0%	0.8%
	多少そう思う	1.1%	8.7%	4.9%	2.4%	0.1%	17.3%
	どちらとも言えない	1.1%	12.8%	12.0%	7.5%	0.3%	33.8%
	余りそう思わない	0.6%	8.7%	8.9%	15.6%	1.9%	35.8%
	全くそう思わない	0.5%	1.7%	1.3%	5.9%	2.8%	12.3%
	合計	3.4%	32.3%	27.4%	31.7%	5.2%	100.0%

注）2,120 人に対する各セルの割合をとった場合。

第 106 表　「Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか」と「24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している」のクロス

		Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか					
Q24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している		十分信頼している	おおむね信頼している	信頼している	あまり信頼していない	ほとんど信頼していない	合計
	全くそう思う	7.1%	33.9%	17.8%	28.5%	12.5%	56 (100%)
	多少そう思う	4.5%	36.8%	31.8%	23.2%	3.5%	198 (100%)
	どちらとも言えない	2.2%	31.9%	34.4%	28.4%	2.9%	482 (100%)
	余りそう思わない	3.4%	35.4%	26.2%	31.8%	3.0%	832 (100%)
	全くそう思わない	3.5%	25.4%	22.9%	37.4%	10.5%	561 (100%)
	合計	73	684	586	674	112	2,129 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

政府への信頼は生産者等の表示と相関的関係が見られる。すなわち，政府は遺伝子組換え技術の利用について注意深く監視しているについて「全くそう思う」層は，生産地等の表示を「十分信頼している」「おおむね信頼している」を合わせた割合が 41.0%であるのに対し，「全くそう思わない」層は同割合が 28.9%と減少し，生産者等の表示も信頼しない傾向が見られる。

そこで，参考として第 107 表では，「Q24-14 食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる」と「Q24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している」をクロス集計してみた。

第 107 表　「Q24-14 食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる」と「Q24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している」のクロス

		Q24-14 食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる					
Q24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している		全くそう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	余りそう思わない	全くそう思わない	合計
	全くそう思う	8.7%	14.0%	33.3%	33.3%	10.5%	57 (100%)
	多少そう思う	1.5%	34.1%	37.7%	25.0%	1.5%	196 (100%)
	どちらとも言えない	0.2%	23.1%	46.5%	25.8%	4.1%	479 (100%)
	余りそう思わない	0.6%	15.9%	35.1%	41.5%	6.7%	830 (100%)
	全くそう思わない	0.5%	8.3%	18.9%	40.3%	31.7%	560 (100%)
	合計	17	365	714	763	263	2,122 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

政府への信頼と食品ラベルへの信頼の間にも相関関係が見られる。すなわち，政府は遺伝子組換え技術の利用について注意深く監視しているについて「全くそう思う」層は，生産地等の表示が信頼できるについて「全くそう思わない」「余りそう思わない」をあわせた割合が 43.8%であるのに対し，政府を信頼しない「全くそう思わない」層は同割合が 72.0%と増加し，食品ラベルの表示も信頼しない傾向が見られる。

第 108 表　「Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか」と「Q24-6 レストランなど飲食店は，食べ物を十分に気をつけて扱っていないと思う」のクロス

		Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか					
		十分信頼している	おおむね信頼している	信頼している	あまり信頼していない	ほとんど信頼していない	合計
Q24-6 レストランなど飲食店は，食べ物を十分に気をつけて扱っていないと思う	全くそう思う	5.2%	24.8%	23.5%	35.4%	10.9%	403 (100%)
	多少そう思う	3.0%	31.7%	27.5%	33.4%	4.0%	881 (100%)
	どちらとも言えない	1.9%	37.2%	29.9%	27.6%	3.2%	615 (100%)
	余りそう思わない	5.6%	36.7%	24.8%	29.5%	3.1%	193 (100%)
	全くそう思わない	7.5%	12.5%	40.0%	25.0%	15.0%	40 (100%)
	合計	74	685	586	675	112	2,132 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

飲食店を信頼する人は，生産者等の表示も信頼する傾向が見られる。すなわち，飲食店は食べ物に気をつけて扱っていないと思うについて「全くそう思う」層は，生産地等の表示を「十分信頼している」「おおむね信頼している」を合わせた割合が 30.0%であるのに対し，「余りそう思わない」層は同割合が 42.3%へと増加し，生産者等の表示を信頼する傾向が見られる。

第 109 表　「Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか」と「Q24-13 遺伝子組換え技術は医学目的であっても使用されるべきではない」のクロス

		Q8 生産地や減農薬・有機栽培等の表示をどの程度信頼していますか					
		十分信頼している	おおむね信頼している	信頼している	あまり信頼していない	ほとんど信頼していない	合計
Q24-13 遺伝子組換え技術は医学目的であっても使用されるべきではない	全くそう思う	40.5%	22.5%	18.2%	20.5%	19.8%	452
	多少そう思う	12.1%	17.0%	18.0%	15.7%	13.5%	352
	どちらとも言えない	22.9%	29.5%	33.0%	29.3%	20.7%	633
	余りそう思わない	13.5%	20.2%	21.1%	25.1%	25.2%	470
	全くそう思わない	10.8%	10.4%	9.4%	9.1%	20.7%	220
	合計	74 (100%)	686 (100%)	581 (100%)	675 (100%)	111 (100%)	2,127 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

生産地や有機表示を信頼する人には，遺伝子組換え技術の医学目的への使用を認めない傾向が見られる。つまり，有機等の表示について「ほとんど信頼していない」人は，遺伝子組換え技術は医学目的であっても使用されるべきではないについて，「全くそう思わない」と「余りそう思わない」の合計の割合が 45.9%であり，遺伝子組換え技術の医学的使用に比較的肯定的である。他方，有機等の表示について「十分信頼している」と「おおむね信頼している」人について，同割合を見ると，24.3%，30.6%であり，遺伝子組換え技術の医学的使用について肯定的割合が減少する。生産地等の表示を信頼する人は，遺伝子組換え食品の購買についても否定的傾向が強く（第 4 表参照），遺伝子組換え技術の医学的使用についても消極的である。

第 110 表　参考:「Q24-13 遺伝子組換え技術は医学目的であっても使用されるべきではない」と「Q24-14 食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる」のクロス

		Q24-14 食品ラベルに表示された安全性や栄養価の情報は信頼できる					
		全くそう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	余りそう思わない	全くそう思わない	合計
Q24-13 遺伝子組換え技術は医学目的であっても使用されるべきではない	全くそう思う	23.5%	18.4%	20.5%	16.4%	41.3%	452
	多少そう思う	0%	15.4%	17.3%	17.7%	13.0%	350
	どちらとも言えない	11.7%	31.2%	31.0%	33.2%	15.3%	632
	余りそう思わない	17.6%	22.5%	21.5%	24.0%	16.0%	465
	全くそう思わない	47.0%	12.2%	9.3%	8.6%	14.1%	223
	合計	17 (100%)	368 (100%)	714 (100%)	762 (100%)	261 (100%)	2,122 (100%)

注）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。

食品ラベルの表示を信頼する人は，遺伝子組換え技術の医学目的への使用について寛容な傾向が見られる。つまり，食品ラベルの表示は信頼できるについて「多少そう思う」人は，遺伝子組換え技術は医学目的であっても使用されるべきではないについて，「全くそう思う」の人の割合は 18.4%と，遺伝子組換え技術の医学使用について寛容である。他方，食品ラベルの表示は信頼できるについて「全くそう思わない」人の場合，同割合は 41.3%と，医学的使用でも否定的割合が増加する。言い換えれば，食品ラベルを信頼しない人は，遺伝子組換え技術の医学的使用について否定的傾向が読み取れる。

なお，「食品ラベルへの信頼」と「性別」，「年齢」および「学歴」との関係について，カイ２乗検定を行った結果，有意水準 10%でも両者の関連は見られなかった。他方，「所得」と「食品ラベルへの信頼」について，スピアマン順位相関係数による有意性検定を行った結果，10%水準で相関が認められ，低所得ほど食品ラベルを信じない傾向が見られた。

3) トレーサビリティの目的とのクロス集計結果

トレーサビリティの目的として，追跡可能性をより重視する人は，安価な野菜を買い，遺伝子組換え食品についても条件次第で受け入れる傾向がある反面，顔の見える関係をより重視する人は，比較的高い野菜を購入し，遺伝子組換え食品については否定的な考えをもつ傾向が見られた。

第 111 表　「Q9 ホウレン草を買うとき，一束どのくらいの値段のものを買っていますか」と，「Q12 トレーサビリティ A,B どちらの目的がより重要ですか」のクロス

Q12 トレーサビリティ，どちらの目的がより重要ですか	Q9 ホウレン草を買うとき，一束どのくらいの値段のものを買っていますか											
		50円	80円	100円	150円	200円	250円	300円	350円	400円以上	その他	合計
	Aが特に重要	31.2%	29.7%	21.6%	20.3%	17.2%	17.6%	20.5%	30.7%	0%	25.0%	436
	Aがより重要	12.5%	17.0%	23.2%	22.5%	23.2%	10.5%	12.8%	7.6%	0%	11.3%	456
	同程度重要	37.5%	23.4%	28.7%	30.7%	31.0%	38.8%	25.6%	30.7%	33.3%	38.6%	641
	Bがより重要	12.5%	21.2%	17.7%	15.7%	18.1%	16.4%	15.3%	7.6%	0%	18.1%	361
	Bが特に重要	6.2%	8.5%	8.7%	10.5%	10.2%	16.4%	25.6%	23.0%	66.6%	6.8%	220
	合計	16 (100%)	94 (100%)	655 (100%)	718 (100%)	447 (100%)	85 (100%)	39 (100%)	13 (100%)	3 (100%)	44 (100%)	2,114 (100%)

注１）スピアマン順位相関係数の有意性検定によれば 1%水準で相関が認められた。
　２）A＝追跡可能性，B＝顔の見える関係

安いホウレン草を買う人は，トレーサビリティにおいてＢの「顔の見える関係」よりもＡの「追跡可能性」をより重視する傾向が見られた。また，高いホウレン草を買う人は「追跡可能性」とともにＢの「顔の見える関係」も重要になっている。例えば，100 円のホウレン草を買う層では，「A が特に重要」と「B が特に重要」について，それぞれの割合は 21.6%と 8.7%であったが，250 円のホウレン草を買う層では，それらの割合が 17.6%と 16.4%になり，B の重要度が増していることが分かる。今までの結果より，高いホウレン草を買う人は有機野菜などの利用者である傾向があり，そういう人は顔の見える関係を好むことも示された。そのため，このような結果になったと思われる。

第 112 表　「Q12 トレーサビリティ A,B どちらの目的がより重要ですか」と「Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか」のクロス

Q12 トレーサビリティA,Bどちらの目的がより重要ですか	Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか				
		価格や品質，安全性などの条件が満足できれば，買ってもよい	価格や品質，安全性などの条件がどんなに良くても，絶対に買いたくない	よくわからない	合計
	Aが特に重要	64.0%	28.3%	7.6%	445 (100%)
	Aがより重要	64.7%	27.7%	7.4%	457 (100%)
	同程度重要	52.8%	39.1%	7.9%	656 (100%)
	Bがより重要	45.8%	47.8%	6.3%	364 (100%)
	Bが特に重要	40.1%	52.2%	7.5%	224 (100%)
	合計	1,185	801	160	2,146 (100%)

注１）カイ２乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。
　２）A＝追跡可能性，B＝顔の見える関係

「A の追跡可能性」を重要であると考える人は，条件が満足できれば遺伝子組換え食品を買ってもよいと考え，「B の顔の見える関係」を重視する人は，買いたくないと考えている。例えば，「A が特に重要」とする人は，条件が満足できれば遺伝子組換え食品を買ってもよいとした割合が 64.0%であるのに対し，「B が特に重要」とする人は，買ってもよいとした割合が 40.1%になって，割合が逆転している。この結果も，顔の見える関係を

好む人は，有機等の利用者が多いことが原因と思われる。

7. 個人属性とのクロス集計結果

以下では，個人属性のうちでも，性別，教育水準，年齢に関するクロス集計の結果を見ていく。統計的に 10%水準以上で有意な関係が認められたものから，興味深いと思われるものについて以下，検討して行く。

1)性別

女性の方が，遺伝子組換え食品に関して，否定的傾向が見られた。

第 113 表　「Q25 性別」と「Q24-12 遺伝子組換え食品には利点があるとしても，もとより自然界に反している」のクロス

	Q25 性別				
		男性	女性	無回答	合計
Q24-12 遺伝子組換え食品には利点があるとしても，もとより自然界に反している	全くそう思う	37.0%	44.7%	38.4%	855
	多少そう思う	29.4%	26.3%	30.7%	597
	どちらとも言えない	16.7%	16.6%	15.3%	354
	余りそう思わない	9.8%	7.2%	7.6%	186
	全くそう思わない	6.8%	4.9%	7.6%	128
	合計	1,214 (100%)	893 (100%)	13 (100%)	2,120 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 10%水準で有意差が見られた。

有意水準 10%で，女性の方が遺伝子組換え食品は自然に反しているとより強く感じる傾向が認められた。例えば，遺伝子組換え食品はもとより自然に反しているについて，「全くそう思う」を選んだのは女性で 44.7%，男性は 37.0%である。

2)教育課程とのクロス集計結果

教育水準によって，遺伝子組換え食品の受容性に差が見られ，特に，大学院卒の人は，遺伝子組換え食品や，遺伝子組換え技術の医学的使用に対してより肯定的であった。

第 114 表　「Q32 あなたはどの教育課程まで終えられましたか」と「Q24-5 現在使用されている食品添加物で，自分の健康が害されることはないと思う」のクロス

	Q24-5 現在使用されている食品添加物で，自分の健康が害されることはないと思う						
		全くそう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	余りそう思わない	全くそう思わない	合計
Q32 あなたはどの教育課程まで終えられましたか	中学・高等学校	2.6%	9.5%	25.8%	32.2%	29.8%	651 (100%)
	専門学校・短期大学	1.0%	8.1%	17.5%	37.3%	35.8%	455 (100%)
	大学	2.2%	6.6%	17.2%	34.9%	38.9%	847 (100%)
	大学院以上	4.9%	6.1%	20.9%	39.5%	28.3%	81 (100%)
	無回答	2.1%	8.6%	16.3%	39.1%	33.6%	92 (100%)
	合計	47	168	426	744	741	2,126 (100%)

注）カイ 2 乗検定によれば 1%水準で有意差が見られた。

食品添加物で自分の健康が害されることはないについて，「中学・高等学校」と「大学院以上」では，「全くそう思わない」の割合が30%以下で他の層より少なく，食品添加物に対し心配している人が比較的少ない。「大学」卒では「全くそう思わない」を選ぶ人は38.9%おり，食品添加物を一番不安に思っている。

第115表　「Q32あなたはどの教育課程まで終えられましたか」と「Q24-8遺伝子組換え技術を食料生産に使用するならば，世界の食料問題の解決に役立つ」のクロス

		Q24-8 遺伝子組換え技術を食料生産に使用するならば，世界の食料問題の解決に役立つ					
		全くそう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	余りそう思わない	全くそう思わない	合計
Q32 あなたはどの教育課程まで終えられましたか	中学・高等学校	5.9%	27.1%	27.9%	21.7%	17.2%	644 (100%)
	専門学校・短期大学	5.5%	18.8%	29.2%	25.9%	20.3%	451 (100%)
	大学	8.0%	24.6%	26.4%	17.3%	23.4%	835 (100%)
	大学院以上	13.7%	25.0%	27.5%	13.7%	20.0%	80 (100%)
	無回答	4.3%	23.9%	32.6%	19.5%	19.5%	92 (100%)
	合計	145	508	585	431	433	2,102 (100%)

注）カイ2乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。

遺伝子組換え技術は食料問題の解決に役立つについて，「大学院」卒では「全くそう思う」と考える率が13.7%と，他の層より高い。「全くそう思わない」を選ぶ率が最も高いのは「大学」卒で，その割合は23.4%であるが，同割合が低いのは「中学・高等学校」卒の17.2%であった。

第116表　「Q32あなたはどの教育課程まで終えられましたか」と「Q24-13遺伝子組換え技術は医学目的であっても使用されるべきではない」のクロス

		Q24-13 遺伝子組換え技術は医学目的であっても使用されるべきではない					
		全くそう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	余りそう思わない	全くそう思わない	合計
Q32 あなたはどの教育課程まで終えられましたか	中学・高等学校	22.2%	15.9%	32.9%	21.3%	7.5%	647 (100%)
	専門学校・短期大学	24.4%	17.1%	32.3%	17.8%	8.1%	454 (100%)
	大学	18.6%	17.3%	26.8%	24.0%	13.0%	845 (100%)
	大学院以上	17.5%	16.2%	17.5%	30.0%	18.7%	80 (100%)
	無回答	21.7%	13.0%	32.6%	21.7%	10.8%	92 (100%)
	合計	447	353	631	466	221	2,118 (100%)

注）カイ2乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。

遺伝子組換え技術は医学目的でも使用されるべきではないについて，「大学院」卒では「全くそう思わない」と考える率が18.7%と，他の層より高く，ここでも好意的である。「全くそう思う」を選ぶ率が高かったのは「専門学校・短期大学」卒で，その割合は24.4%あり，否定的傾向が強かった。

第117表　「Q32あなたはどの教育課程まで終えられましたか」と「Q24-19政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している」のクロス

		Q24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している					
		全くそう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	余りそう思わない	全くそう思わない	合計
Q32 あなたはどの教育課程まで終えられましたか	中学・高等学校	4.3%	11.2%	23.3%	38.7%	22.4%	651 (100%)
	専門学校・短期大学	1.1%	7.0%	25.8%	40.1%	25.8%	453 (100%)
	大学	2.1%	9.4%	20.8%	38.4%	29.1%	845 (100%)
	大学院以上	2.4%	6.1%	24.6%	41.9%	24.6%	81 (100%)
	無回答	3.2%	6.5%	18.6%	38.4%	32.9%	91 (100%)
	合計	56	196	482	828	559	2,121 (100%)

注）カイ２乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。

政府は遺伝子組換え技術の利用について注意深く監視しているについて，「中学・高等学校」卒の層は，「全くそう思う」を選ぶのが一番高くて 4.3%であり，「全くそう思わない」を選ぶ割合も 22.4%と最も低く，政府を最も信頼していた。他方，「全くそう思わない」を選ぶ割合が高かったのは「大学」卒で 29.1%であり，無回答の人も 32.9%が「全くそう思わない」を選んだ。大学卒や教育課程について語らない人は，政府を信頼していない傾向がより強いと考えられる。

3）年齢とのクロス集計結果

年齢が上がるほど，一定の傾向が見られるというよりは，年齢の階層によって考え方や生活スタイルが異なるため，年齢階層をカテゴリー変数と見なして検定を行った。

総じて，35～54 才層は，食の安全性に関してより不安を感じており，遺伝子組換え食品に関しても否定的であった。

第 118 表　「Q26 年齢」と「Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか」のクロス

		Q10 遺伝子組換え野菜について，どのようにお考えですか			
		価格や品質，安全性などの条件が満足できれば，買ってもよい	価格や品質，安全性などの条件がどんなに良くても，絶対に買いたくない	よくわからない	合計
Q26 年齢	18才-24才	64.6%	26.1%	9.2%	65 (100%)
	25才-34才	55.4%	34.2%	10.3%	339 (100%)
	35才-44才	52.5%	41.6%	5.8%	620 (100%)
	45才-54才	51.0%	40.8%	8.0%	619 (100%)
	55才-64才	57.4%	34.9%	7.6%	315 (100%)
	65才-74才	70.3%	24.3%	5.2%	152 (100%)
	75才-84才	80.0%	20.0%	0%	15 (100%)
	無回答	64.2%	21.4%	14.2%	14 (100%)
	合計	1,181	797	161	2,139 (100%)

注）無回答を除き，カイ２乗検定を行ったところ1%水準で有意差が見られた。

遺伝子組換え野菜について，条件が満足できれば，どの世代でも半数以上が「買っても

よい」と回答している。特に 65-74 才層では 70.3%が「買ってもよい」としており，次いで，18-24 才層でも 64.6%が「買ってもよい」としている。

第 119 表　「Q26 年齢」と「Q24-1 地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものだ」のクロス

		Q24-1 地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものだ					
Q26 年齢		全くそう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	余りそう思わない	全くそう思わない	合計
	18才-24才	63.0%	21.5%	9.2%	6.1%	0%	65 (100%)
	25才-34才	58.7%	27%	10.3%	2.6%	1.1%	337 (100%)
	35才-44才	68.6%	25.5%	3.7%	1.6%	0.4%	619 (100%)
	45才-54才	72.8%	20.7%	3.7%	2.4%	0.1%	616 (100%)
	55才-64才	72.2%	21.4%	3.5%	1.9%	0.9%	313 (100%)
	65才-74才	78.1%	16.5%	3.9%	1.3%	0%	151 (100%)
	75才-84才	66.6%	20%	6.6%	0%	6.6%	15 (100%)
	無回答	71.4%	21.4%	7.1%	0%	0%	114 (100%)
	合計	1,477	489	106	46	12	2,130 (100%)

注）無回答を除き，カイ 2 乗検定を行ったところ 1%水準で有意差が見られた。

地球は，非常に限られた空間と資源をもつ宇宙船のようなものという考え方については，年齢が高まるほど「全くそう思う」という割合が増加する傾向が見られる。65-74 才層に至っては 78.1%が同意する。「宇宙船地球号」という有名なフレーズは 1960 年代に米国の経済学者ボールディング博士や，建築家で技術者のフラー氏が提唱した考え方である。このため，ある程度年齢が上の層の方が，よりこの言葉に耳慣れていると思われる。

なお，この設問以外の環境に関する質問では，18-24 才層において特に環境意識が高いという結果が見られた。

第 120 表　「Q26 年齢」と「Q24-5 現在使用されている食品添加物で，自分の健康が害されることはないと思う」のクロス集計結果

		Q24-5 現在使用されている食品添加物で，自分の健康が害されることはないと思う					
Q26 年齢		全くそう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	余りそう思わない	全くそう思わない	合計
	18才-24才	0%	9.2%	9.2%	29.2%	52.3%	65 (100%)
	25才-34才	0.8%	5.8%	18.8%	33.3%	41.0%	339 (100%)
	35才-44才	1.1%	5.1%	19.5%	36.2%	37.8%	623 (100%)
	45才-54才	3.3%	7.7%	16.5%	35.5%	36.7%	621 (100%)
	55才-64才	3.1%	12.7%	23.2%	34.3%	26.4%	314 (100%)
	65才-74才	4.0%	13.3%	34.0%	34.6%	14.0%	150 (100%)
	75才-84才	6.6%	13.3%	46.6%	20.0%	13.3%	15 (100%)
	無回答	0%	0%	35.7%	42.8%	21.4%	14 (100%)
	合計	48	168	431	748	746	2,141 (100%)

注）無回答を除き，カイ 2 乗検定を行ったところ 1%水準で有意差が見られた。

食品添加物で自分の健康が害されることはないについて，18-24 才層は「全くそう思わない」を選ぶのが 52.3%と多く，添加物を非常に不安に思っていることが分かる。その一

方，65-74 才層は「全くそう思わない」はわずか 14.0%であり，添加物をそれほど不安に思っていないことが示された。遺伝子組換え食品の場合は現役世代が忌避していたが（第 118 表参照），添加物に関する設問では，若者の方が不安がっている。世代によって，「食品の何に不安を感じるか」が異なることが示された。

第 121 表　「Q26 年齢」と「Q24-11 大多数の人が遺伝子組換え食品を好むならば，それは許可されるべきである」のクロス

	Q24-11 大多数の人が遺伝子組換え食品を好むならば，それは許可されるべきである						
Q26年齢		全くそう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	余りそう思わない	全くそう思わない	合計
	18才-24才	9.2%	15.3%	30.7%	16.9%	27.6%	65 (100%)
	25才-34才	6.1%	16.2%	25.0%	25.3%	27.1%	339 (100%)
	35才-44才	2.8%	11.7%	22.4%	26.3%	36.5%	623 (100%)
	45才-54才	5.1%	11.5%	17.5%	25.2%	40.4%	621 (100%)
	55才-64才	6.7%	16.7%	20.5%	25.7%	30.2%	311 (100%)
	65才-74才	5.9%	26.4%	21.1%	20.5%	25.8%	151 (100%)
	75才-84才	13.3%	20.0%	26.6%	33.3%	6.6%	15 (100%)
	無回答	7.1%	7.1%	42.8%	21.4%	21.4%	14 (100%)
	合計	110	306	460	537	726	2,139 (100%)

注）無回答を除き，カイ 2 乗検定を行ったところ 1%水準で有意差が見られた。

大多数の人が遺伝子組換え食品を好むならば，それは許可されるべきであるについて，「全くそう思わない」の割合が，45-54 才層では 40.4%と最も高く，次いで 35-44 才層の 36.5%となっている。これらの世代では，大多数の人が望むとしても遺伝子組換え食品は許可されてはならないと考えている。なお，65-74 才層の年配世代は，相対的に許可されて良いと考える人も増え，また，18-24 才層では「どちらともいえない」が 30.7%で最も多かった。

第 122 表　「Q26 年齢」と「Q24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している」のクロス

	Q24-19 政府は，医療，農業及び食品産業等における遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視している						
Q26 年齢		全くそう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	余りそう思わない	全くそう思わない	合計
	18才-24才	1.5%	7.6%	20.0%	44.6%	26.1%	65 (100%)
	25才-34才	0.5%	4.7%	25.3%	38.6%	30.6%	339 (100%)
	35才-44才	2.0%	5.6%	22.3%	40.1%	29.7%	622 (100%)
	45才-54才	4.0%	8.4%	19.3%	41.0%	27.1%	616 (100%)
	55才-64才	3.5%	16.5%	21.6%	37.5%	20.7%	314 (100%)
	65才-74才	3.3%	23.3%	32.6%	29.3%	11.3%	150 (100%)
	75才-84才	0%	13.3%	33.3%	33.3%	20.0%	15 (100%)
	無回答	0%	7.1%	42.8%	21.4%	28.5%	14 (100%)
	合計	57	198	485	833	562	2,135(100%)

注）無回答を除き，カイ 2 乗検定を行ったところ 1%水準で有意差が見られた。

政府は遺伝子組換え技術の適正な利用について注意深く監視しているについて「全くそう思わない」を，25-34 才層，35-44 才層では，それぞれ 30.6%，29.7%が選んでおり，この世代では政府に対する不信感が，他の層より少し強く表れている。

8. 日常的に食品を購買すると思われる人とそうでない人との比較分析

これまでの分析は，日常的に食品を自ら購入すると思われる人とそうでない人を区別せずに分析してきた。そこで，この章では，女性と独居男性を「日常的に食品を自ら購入すると思われる人」とし，家族と同居している男性を「日常的に食品を自ら購入するとは思われない人」と便宜的に二分して，両者を比較した結果を示そう。分析内容によっても使用したサンプル数は若干異なるが，両グループともサンプル数はほぼ同数であった。

大まかな傾向として，「日常的に食品を自ら購入すると思われる人」と「日常的に食品を自ら購入するとは思われない人」との間に，意識に関しては，あまり有意な差は見られなかった。つまり，意識に関しては，その人自身の価値観の方がより重要な要因となっているため，日常的に食品を購入していることの有無は，分析結果にあまり影響を与えなかったと考えられる。

他方，生鮮野菜を買う店など，日常の購買行動と密接に関係する設問の解答に関しては，両者の間に１%水準で有意な差が見られた。例えば，日ごろ生鮮野菜を買う店についての設問では，便利性の高い「スーパー」を利用する割合は，「日常的に食品を自ら購入するとは思われない人」の方が多かったなど，である。

したがって，より厳密な分析結果の解釈にあたっては，このような差異を配慮して行うことが望ましいと考える。

第 123 表　「Q1 遺伝子組換え食品という言葉を聞いたことがありますか」の比較

	ある	合計
女性と独居男性	99.5%	1,053 (100%)
同居者のいる男性	99.2%	1,050 (100%)

注）カイ２乗検定によれば，５%水準で有意差が見られなかった。

第 124 表　「Q2-1 遺伝子組換え食品が通常の食品よりかなり安い場合」の購入意志の比較

	是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	あまり買いたくない	絶対買いたくない	合計
女性と独居男性	3.4%	16.4%	7.5%	37.2%	35.6%	1,074 (100%)
同居者のいる男性	4.3%	19.8%	8.5%	36.2%	31.3%	1,078 (100%)

注）カイ２乗検定によれば 10%水準で有意差は見られなかった。（有意差判定確率＝0.080）

第 125 表　「Q2-6 食の安全性は通常の食品よりも高いことがきちんと証明された場合」の購入意志の比較

	是非買いたい	買ってもよい	どちらでもよい	あまり買いたくない	絶対買いたくない	合計
女性と独居男性	21.8%	36.1%	12.3%	12.5%	17.3%	1,074 (100%)
同居者のいる男性	23.9%	36.1%	11.9%	12.9%	15.2%	1,072 (100%)

注）カイ２乗検定によれば５％水準で有意差は見られなかった。(有意差判定確率＝0.622)

第 126 表　「Q12 トレーサビリティの目的」の比較

	A が特に重要	A がより重要	同程度重要	B がより重要	B が特に重要	合計
女性と独居男性	17.6%	21.9%	33.3%	17.4%	9.9%	1,075 (100%)
同居者のいる男性	23.8%	20.7%	27.7%	16.6%	11.2%	1,075 (100%)

注１）カイ２乗検定によれば1%水準で有意差が見られた。(有意差判定確率＝0.002)
２）Ａ＝追跡可能性，Ｂ＝顔の見える関係

第 127 表　「Q16 トレーサビリティのついた食品に対して，いくらまでなら余分に払ってもよいと思いますか」の比較

	1%まで	2%まで	3%まで	5%まで	10%まで	15%まで	20%まで	30%まで	買いたくない	その他	合計
女性と独居男性	15.1%	12.1%	17.1%	29.1%	16.2%	1.2%	1.6%	1.5%	4.1%	1.9%	729 (100%)
同居者のいる男性	12.9%	11.1%	19.1%	31.1%	16.9%	1.2%	3.3%	0.4%	2.3%	1.7%	692 (100%)

注）カイ２乗検定によれば５％水準で有意差は見られなかった。(有意差判定確率＝0.099)

第 128 表　「Q6 減農薬野菜や有機野菜をよく買いますか」の比較

	いつも買っている	しばしば買う	ときどき買う	あまり買わない	まず買わない	合計
女性と独居男性	14.1%	29.5%	38.1%	16.4%	1.9%	1,073 (100%)
同居者のいる男性	11.5%	31.0%	38.7%	15.2%	3.5%	1,071 (100%)

注）カイ２乗検定によれば５％水準で有意差は見られなかった。(有意差判定確率＝0.053)

第 129 表　「Q3 生鮮野菜を主に買う店」の比較

	スーパー	八百屋	地元の店	生協	Aコープ	安売りショップ	個人的な産直	買わなくても手に入る	その他	合計
女性と独居男性	63.6%	6.7%	5.4%	13.5%	1.6%	0.2%	4.0%	0.9%	4.0%	1,066 (100%)
同居者のいる男性	70.1%	4.9%	4.9%	9.3%	2.4%	0.4%	4.1%	1.5%	2.3%	1,071 (100%)

注）カイ２乗検定によれば，1%水準で有意差は見られた。(有意差判定確率＝0.003)

第 130 表　「Q4 生鮮野菜を買うとき，あなたが気をつけていること（1番目）」についての比較

	味	価格	栄養	安全性	鮮度	合計
女性と独居男性	2.6%	13.6%	1.1%	35.4%	47.3%	1,072 (100%)
同居者のいる男性	3.4%	13.1%	1.3%	37.1%	45.2%	1,074 (100%)

注）カイ２乗検定によれば，５％水準で有意差は見られなかった。（有意差判定確率＝0.701）

9. おわりに

第２部のまとめとして，クロス表に基づく分析結果を以下に示す。

第一に，食の安全・安心に関する消費者の意識や購買行動としては，次のような傾向が認められた。食の安全性を重視する人は，自然の脆弱性をより強く感じ，食品添加物をより不安に思い，遺伝子組換え食品や政府の監視について否定的である。他方，価格を重視する人は，食の安全性や環境問題について，あまり気にかけない傾向が見られた。

見た目を気にする人は，生鮮野菜について安全性よりも鮮度を重視する傾向が強い。見た目を気にしない人の方が，より値段の高い有機野菜などを購入し，遺伝子組換え食品を回避する傾向が強く，政府よりも消費者団体を信頼し，環境の脆弱性をより心配している。有機野菜の購入頻度の高い人は，生産地表示をより信頼する傾向にある。

トレーサビリティの目的として，追跡可能性をより重視する人は，安価な野菜を買い，遺伝子組換え食品についても条件次第で受け入れる傾向がある。他方，顔の見える関係をより重視する人は，比較的高い野菜を購入し，遺伝子組換え食品については否定的な考えをもつ傾向が見られた。

生鮮野菜を購入する店とのクロス集計結果からは，「Ａコープ」や「生協」，「個人的な産直」の利用者は，「スーパー」の利用者よりも，環境の脆弱性を感じ，食品添加物について心配し，遺伝子組換え食品を好まない傾向が見られた。他方，全回答者の過半数を占める多数派である「スーパー」利用者は，これらの問題について比較的おおらかに考えている。

また，トレーサビリティや外国産品に対する考え方と日常的に生鮮野菜を購入する店との関係を見ると，トレーサビリティの役割のうち，「スーパー」の利用者は追跡可能性をより重視し，「生協」や「個人的な産直」の利用者は顔の見える関係をより重視していた。この「生協」や「個人的な産直」の利用者は，国産食材をより重視する傾向があり，遺伝子組換え技術の利用や監視について，科学者や政府を余り信頼していない傾向が見られた。

このような結果から，リスクコミュニケーションを行う場合，消費者は利用する店によって食の安全・安心に関する考え方が異なるため，食に関するパンフレット等を作成して消費者に呼びかける場合でも，パンフレットを置く店に応じて，消費者により理解しやすい内容を準備することが重要と思われる。この点については，さらに第３部で詳細に検討していく。

第二に，遺伝子組換え食品に関するクロス集計結果を見ていこう。一般的傾向として，

自然や環境のもつ有限性や脆弱性を憂慮し，食品添加物を心配し，飲食店の衛生管理や食品ラベルの表示を疑問視し，食の安全性を重視し，遺伝子組換え技術やその医学的利用にも反対の立場をとる人ほど，遺伝子組換え食品に対して否定的反応を示す傾向があった。また，大学院以上の教育を受けた人は遺伝子組換え食品に対して受容性が高く，所得の高い人や食費の多い人ほど遺伝子組換え食品を回避する傾向があった。

購買行動と関連では，日常的に浄水器を使用し，有機食品を購入し，ファーストフードを敬遠し，食品ラベルを頻繁に確認する人ほど，遺伝子組換え食品を回避する傾向がある。他方，食べ物について特売の利用や買いだめをする人は，遺伝子組換え食品が安価であれば，買いたいと思う傾向が見られた。また，価格や栄養を重視する人は，条件次第で遺伝子組換え食品や外国産食材を買ってもよいと考える人の割合が高く，安全性を重視する人は遺伝子組換え食品や外国産食材を買いたがらない傾向が見られた。

日常的に利用する店との関連では，「スーパー」で買い物をする人は，「生協」や「個人的な産直」を利用する人と比較して，遺伝子組換え食品をより買ってもよいと考える傾向が見られる。生産地名等を確認しない人や有機野菜を買わない人，安い野菜を買う人ほど，遺伝子組換え食品の購入可能性は高くなっている。また，トレーサビリティの監視主体として消費者団体を望む人は，遺伝子組換え食品に対してより否定的であった。

消費者にとって何らかのメリットをもたらす遺伝子組換え食品については，メリットに拘わらず購入したくないという消費者がいる反面，低農薬・低化学肥料あるいは無農薬で生産された場合，ビタミン・栄養価がかなり高い場合，あるいはかなり美味しい場合については，安いだけの遺伝子組換え食品よりも，全体として購買意欲が高まる傾向が見られた。特に，無農薬の遺伝子組換え食品に対しては，低農薬や栄養価の高い遺伝子組換え食品よりも，購買意欲が上がっている。さらに，通常の食品に比べて，遺伝子組換え食品の安全性が高い場合には，購買意欲が高まることが認められた。

したがって，通常の食品よりも，残留農薬やアレルギー原因物質，天然有毒物質等に配慮した食品が遺伝子組換え技術によって開発されれば，消費者の遺伝子組換え食品に関する受容性は高まると予想される。

第三に，日常的に食品を購買すると思われる人とそうでない人との比較を行った。上述の分析は，日常的に食品を自ら購入すると思われる人とそうでない人を区別していなかった。そこで，女性と独居男性を「日常的に食品を自ら購入すると思われる人」とし，家族と同居している男性を「日常的に食品を自ら購入するとは思われない人」として，両者を比較した結果を示す。両グループともサンプル数はほぼ同数であった。

おおよその傾向として，「日常的に食品を自ら購入すると思われる人」と「日常的に食品を自ら購入するとは思われない人」との間に，意識に関しては，有意な差はあまり見られなかった。つまり，意識に関しては，その人自身の価値観の方がより重要な要因となっているため，日常的な食品購入の有無は，分析結果にあまり影響を与えなかったと考えられる。

他方，生鮮野菜を買う店など，日常の購買行動と密接に関係する設問の解答に関しては，両者の間に１％水準で有意な差が見られた。例えば，便利性の高い「スーパー」を利用する人は，「日常的に食品を自ら購入するとは思われない人」の方が多かったなど，である。したがって，日常の購買行動と密接に関係する設問のアンケート結果の解釈については，注意する必要があると思われる。